

V-nas/V-nas 施工版

コマンドリファレンス 書き込み機能版

目次

1 章 はじめに	1-1
1 制限事項と注意点	1-1
2 章 朱書きモード『ファイル』	2-1
1 開く	2-2
◆ 開く:ダイアログ	2-2
◆ 新しいフォルダ:ダイアログ	2-4
2 朱書き読み込み	2-5
3 上書き保存	2-5
4 名前を付けて保存	2-6
◆ 名前を付けて保存:ダイアログ	2-6
◆ 選択:ダイアログ	2-8
◆ 朱書きファイル名設定:ダイアログ	2-9
◆ ファイル名アシスト:ダイアログ	2-10
5 朱書き送信	2-11
3 章 朱書きモード『作図』	3-1
1 連続線	3-2
2 楕円	3-2
3 文字	3-3
◆ 文字入力:ダイアログ	3-3
4 スプライン	3-4
5 吹出	3-5
5-1 雲形吹出	3-5
5-2 爆発形吹出	3-5
◆ 文字入力:ダイアログ	3-6
6 引出	3-7
6-1 矢印形引出	3-7
6-2 雲形引出	3-7
6-3 爆発形引出	3-8
◆ 文字入力:ダイアログ	3-8
7 レ点	3-9
4 章 朱書きモード『編集』	4-1
1 複写	4-2
2 移動	4-2
3 吹出移動	4-4
4 引出移動	4-5

目次

5 削除.....	4-6
6 属性変更.....	4-6
◆ 属性変更:ダイアログ	4-7
5章 朱書きモード『表示』	5-1
1 範囲表示.....	5-2
◆ 表示範囲の変更:ダイアログ	5-2
2 朱書き.....	5-2
6章 朱書きモード『ツール』	6-1
1 オプション.....	6-2
◆ 一般:タブ.....	6-2
◆ レイヤ名:タブ.....	6-3
2 基準適合検査.....	6-4
◆ 条件設定:ダイアログ	6-4
◆ レイヤテンプレート詳細:ダイアログ	6-5
◆ チェック項目:ダイアログ	6-6
◆ 図面サイズ:ダイアログ	6-9
◆ 枠:ダイアログ	6-10
◆ レイヤ:ダイアログ	6-12
◆ 線種:ダイアログ	6-14
◆ 線幅:ダイアログ	6-14
◆ 文字サイズ:ダイアログ	6-15
◆ フォント名:ダイアログ.....	6-16
◆ 寸法線・引出線:ダイアログ	6-17
◆ SXFチェック:ダイアログ	6-17
◆ レイヤ名の命名規則:ダイアログ	6-19
◆ 既定外色チェック設定:ダイアログ	6-20
◆ チェック結果:ダイアログ	6-21
3 文字検索.....	6-22
◆ 文字列の検索:ダイアログ	6-23
4 部分図テーブル.....	6-24
◆ 部分図テーブルの編集:ダイアログ	6-25
◆ 部分図の追加:ダイアログ	6-27
◆ 部分図の編集:ダイアログ	6-28
5 座標系.....	6-29
◆ 座標系の設定:ダイアログ	6-29
◆ 座標系の追加:ダイアログ	6-30
◆ 座標系の変更:ダイアログ	6-31
◆ 2点指示:ダイアログ	6-33
7章 朱書きモード『設定』	7-1

目次

1 表示.....	7-2
1-1 画面表示	7-2
◆ 画面表示の設定:ダイアログ	7-2
1-2 仮要素	7-7
◆ 仮要素の設定:ダイアログ	7-8
2 SXF変換.....	7-10
◆ SXFファイル変換の設定:ダイアログ.....	7-10
3 AutoCAD変換.....	7-13
◆ AutoCADファイル変換の設定:ダイアログ.....	7-13
8 章 朱書きモード『朱書き』	8-1
1 朱書きモード.....	8-2

1

はじめに

1章 はじめに

この度は、V-nas をご採用いただきましてありがとうございます。

本書は、土木汎用 CAD V-nas の朱書きモードのシステム概要およびコマンドの操作方法を解説しています。V-nas の操作方法が分からない場合や機能の詳細を知りたい場合に、ご利用下さい。
なお、本書は V-nas 施工版と共通の朱書きモードのコマンドリファレンスとなります。

朱書きモード以外の機能に関してはインストールしたフォルダ(初期設定では C:\¥V-nas¥V-nas12¥manual)の下にある V-nas コマンドリファレンスおよび V-nas 入門編(ともに pdf ファイル)にて説明しています。併せてご覧下さい。

1 制限事項と注意点

土木汎用 CAD V-nas に関する制限事項と注意点を以下に記載します。

・CAD モードと朱書きモードについて

土木汎用 CAD V-nas は、使用用途に合わせモードを切り替えながら編集作業や図面の指示を行うことができます。納品された図面ファイルの原本性を確保したい場合は“朱書きモード”で変更内容の指示を朱書きし、納品された図面を利用して発注図などへ加工したい場合は“CAD モード”で編集作業を行うことができます。本書では、朱書きモードの説明をしております。

2

朱書きモード『ファイル』

2章 朱書きモード『ファイル』

ファイルの管理をします。

開く	既存の物件を開きます。
朱書き読み込み	朱書きファイル(*.red)を開いている図面ファイルに読み込みます。
閉じる	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー閉じる』を参照)
上書き保存	編集中の朱書きファイルを元の場所に保存します。
名前を付けて保存	編集中の朱書きファイルを名前を付けて保存します。
図面設定	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー図面設定』を参照)
印刷	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー印刷』を参照)
印刷プレビュー	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー印刷プレビュー』を参照)
プリンタの設定	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイループリンタの設定』を参照)
送信	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー送信』を参照)
朱書き送信	朱書きファイルをメールで送信します。
終了	(V-nas コマンドリファレンスの『ファイルー終了』を参照)

1 開く

機能

既存のファイルを開きます。

最近開いたファイルは、『ファイルー前物件』でも開くことができます。

朱書きファイル(拡張子 red, p21, sfc)を開くと、ベースとなる図面ファイル(拡張子 bfo, p21, sfc)も同時に開かれます。

操作方法

1. ファイルを選択して下さい。【開く:ダイアログ】

ヒント

別の名前で保存することによりファイルの複製を作成することができます。

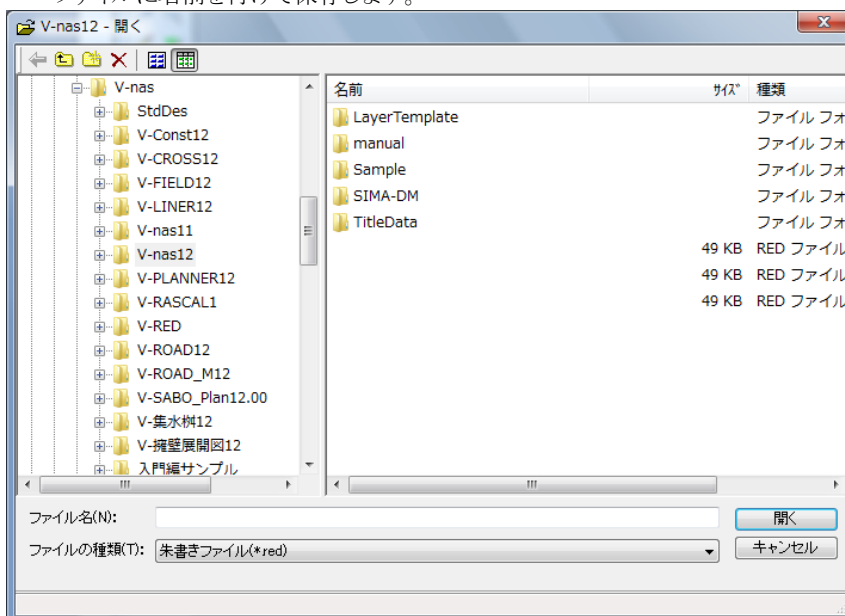
SXFファイル(拡張子 p21, sfc)の保存は1ページ単位です。したがって複数ページ作図した場合はそのほかのページは保存されませんのでご注意ください。

他のパソコンなどで、同じファイルを既にも開いている場合、保存することはできません。

◆ 開く:ダイアログ

機能

ファイルに名前を付けて保存します。



説明

【最後に表示したフォルダへ移動】ボタン



1つ前に表示したフォルダへ移動します。

【1つ上のフォルダへ移動】ボタン



【フォルダ】ツリービューにて選択したフォルダの1つ上へフォルダが移動します。

【新しいフォルダを作成】ボタン



【フォルダ】ツリービューにて選択したフォルダの下に新しいフォルダを作成します。【新しいフォルダ:ダイアログ】

【削除】ボタン



【フォルダ】ツリービューまたは、【ファイル】リストにて選択したフォルダおよびファイルを削除します。削除前に削除を確認するメッセージが表示されます。

【サムネール】ボタン



【ファイル】リストに、V-nas、AutoCAD、Jw_cad、SXFファイルの縮小版を表示します。(この簡単な絵をサムネールと呼びます。)

V-nasファイルは各ファイルの1番若いページのサムネールを表示します。【名前を付けて保存:ダイアログ】でサムネールを作成したファイルについてのみ表示されます。

V-nas ver3.00以前のファイルは保存し直すとサムネールが表示されます。

サムネールの保存については【名前を付けて保存:ダイアログ】を参照して下さい。

表示したサムネールは指定フォルダに保存し次回から高速に表示します。【設定-その他】で保存フォルダ、保存サイズの上限、サムネールを作成するファイルのサイズ等の設定が可能です。

【詳細】ボタン



【ファイル】リストに、ファイル名、ファイルサイズ、ファイルの種類、更新日時を表示します。

【フォルダ】ツリービュー

必要なファイルが保存されているフォルダを選択します。

【ファイル】リスト

【フォルダ】ツリービューにて選択したフォルダの下にあるファイル、フォルダを一覧表示します。ファイル名、またはサムネールをクリックし開きたいファイルを選択します。<Ctrl>、<Shifi>キーを押しながらクリックすると複数選択も可能です。

【ファイル名】エディットボックス

これから開く物件のファイル名を選択または入力します。上のリストには、【ファイルの種類】コンボボックスで、選択されているファイル形式に対応する拡張子を持った図面を、一覧表示します。ファイル名にはワイルドカードが使用できます。特定の拡張子を持つファイルの一覧を表示するには、アスタリスク(*)、ピリオド(.)および3文字以内の拡張子を順にエディットボックスに入力して、<Enter>を押します。さらに別の拡張子を持つファイルの一覧を追加するには、セミコロン(;)で区切って入力します。例えば拡張子.bfoを持つファイルと拡張子.dxfを持つ

ファイルの一覧を示す場合は*.bfo;*.dxfと入力します。

[ファイルの種類]コンボボックス

[ファイル]リストに表示するファイル形式を選択します。

[開く]ボタン

指定したファイルを開きます。

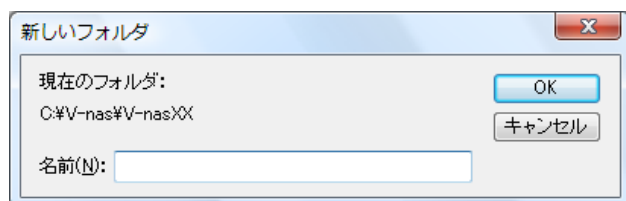
ヒント

ファイルを保存してある場所をあらかじめ初期設定として登録することができます。『設定ーその他』を参照して下さい。

◆ 新しいフォルダ:ダイアログ

機能

【開く:ダイアログ】の[フォルダ]ツリービューにて選択したフォルダの下に新しいフォルダを作成します。



説明

[名前]エディットボックス

作成するフォルダ名を入力します。ファイル名は、スペースも含めて最大 215 文字です。

次の文字は、ファイル名に使用できません。

¥ / : * ? " < > |

2 朱書き読み込み

『ファイルー朱書き読み込み』

機能

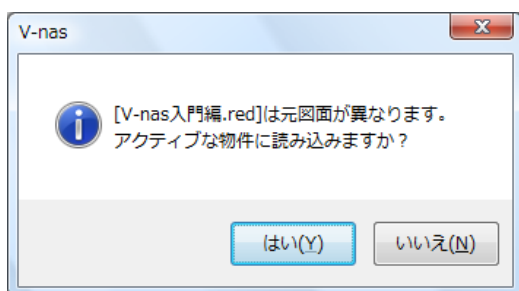
朱書きファイル(*.red)を開いている図面ファイルに読み込みます。

操作方法

1. ファイルを選択して下さい。【ファイルを開く:ダイアログ】

ヒント

ベースとなる図面ファイルが違う場合、以下のメッセージが表示されます。



3 上書き保存

『ファイルー上書き保存』

編集中のファイルを、それ以前に『ファイルー名前を付けて保存』で設定したファイル名、保存場所、及び保存形式で保存します。初めてファイルを保存する場合は【名前を付けて保存:ダイアログ】を表示します。

ヒント

すでに設定されている図面のファイル名、保存場所、またはファイル形式を変更するには、『ファイルー名前を付けて保存』を選択します。

このコマンドはファイルを保存するだけでウィンドウを閉じません。

4 名前を付けて保存

『ファイルー名前を付けて保存』

機能

編集中のファイルを名前を付けて保存します。別のファイル形式、または別の保存場所に保存できます。

操作方法

1. ファイルを選択して下さい。【名前を付けて保存:ダイアログ】

【名前を付けて保存:ダイアログ】で SXF ファイルで保存した場合

2. 【選択:ダイアログ】
3. 【朱書きファイル名設定:ダイアログ】

ヒント

別の名前で保存することによりファイルの複製を作成することができます。

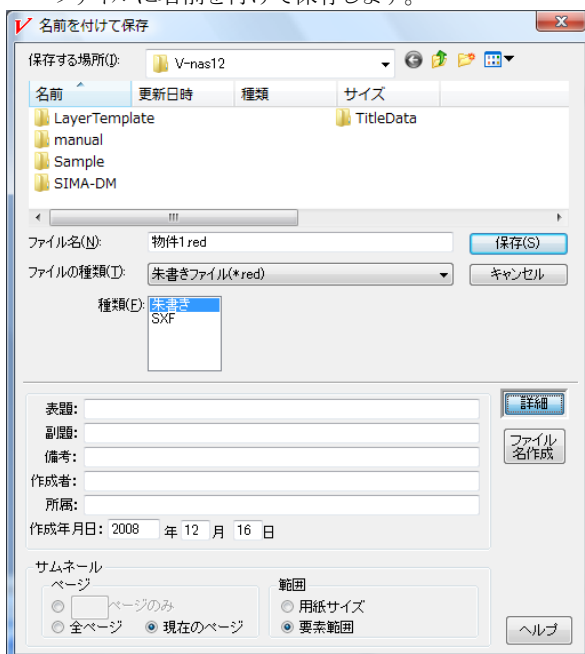
SXF ファイル (拡張子 p21, sfc) の保存は 1 ページ単位です。したがって複数ページ作図した場合はそのほかのページは保存されませんのでご注意ください。

他のパソコンなどで、同じファイルを既に開いている場合、保存することはできません。

◆ 名前を付けて保存:ダイアログ

機能

ファイルに名前を付けて保存します。



説明

[ファイル名]エディットボックス

編集中のファイルを新しいファイル名、別のファイル形式、または別の保存場所に保存するために新しいファイル名を入力します。

拡張子を省略するとファイルの種類にしたがって自動的に付加されます。

[ファイルの種類]コンボボックス

保存するファイルのファイル形式を選択します。

[種類]リスト

保存するファイルの種類を「朱書き」、「SXF」から選択します。

[拡張子]リスト

保存するファイルの拡張子を選択します。[種類]リストの種類に対応した拡張子を表示します。

[Ver]リスト

保存するファイルのバージョンを選択します。[拡張子]リストの種類に対応したバージョンを表示します。

[詳細]ボタン

指定したファイルの図面情報を入力します。図面情報はなくても構いません。図面情報は、『ファイルー図面設定』の「図面情報」タブに表示します。

この機能は朱書きファイル(拡張子 red)のみ有効です。

ただし、表題、作成者、所属は SXF ファイル(拡張子 P21,sfc)にも保存されます。

詳細はヒントの《SXF ファイルに保存する場合の表題の扱いについて》を参照して下さい。

[表題]エディットボックス

図面の表題を入力します。

[副題]エディットボックス

図面の副題を入力します。

[備考]エディットボックス

備考を入力します。

[作成者]エディットボックス

作成者を入力します。

[所属]エディットボックス

所属を入力します。

[作成年月日]エディットボックス

作成年月日を入力します。

[サムネール]グループ

【開く:ダイアログ】でファイルを選択する場合に、そのファイルがどのような図面なのか一目で分かるように簡単な絵を表示します(この簡単な絵をサムネールと呼びます)。

サムネールを作成するかどうかを設定します。

[ページ]ラジオボタン

サムネールを全ページに対して作成するか、特定のページに対して作成するかを選択します。

[範囲]ラジオボタン

サムネールを用紙サイズに合わせて作成するか、要素範囲に合わせて作成するかを選択します。

[ファイル名作成]ボタン

CAD 製図基準に対応したファイル名の生成を行います。【ファイル名アシスト:ダイアログ】

ヒント

図面ファイルを保存する場所をあらかじめ初期設定として登録することができます。『設定—その他』を参照して下さい。

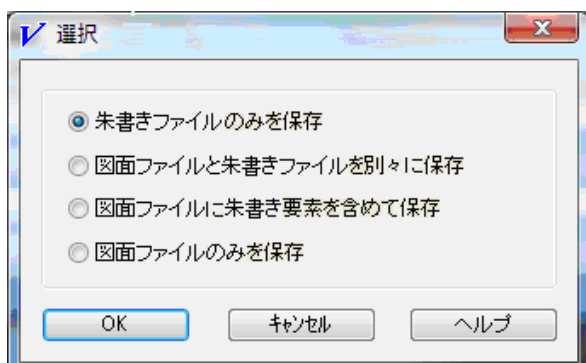
SXF ファイルに保存する場合の表題の扱いについて

SXF ファイルの保存では、保存対象となるページに名前(コメント)が設定されている場合はページの名前を、設定されていない場合は図面情報の表題を、「図面名」として保存します。また、SXF ファイルの読み込みを行った場合、「図面名」はページの名前(コメント)として読み込まれます。表題情報には反映されません。

◆ 選択:ダイアログ

機能

SXF ファイルを保存する時に、保存するファイルを選択します。



説明

[朱書きファイルのみ保存]ラジオボタン

朱書きファイルのみ保存します。

[図面ファイルと朱書きファイルを別々に保存]ラジオボタン

図面ファイルと朱書きファイルを別々に分けて保存します。

[図面ファイルに朱書き要素を含めて保存]ラジオボタン

図面ファイルに朱書き要素を含めて、一つのファイルで保存します。

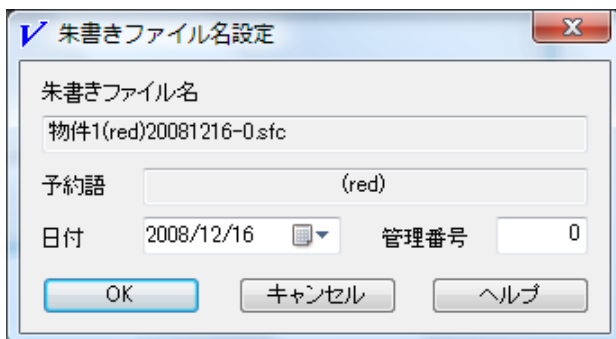
[図面ファイルのみを保存]ラジオボタン

図面ファイルのみ保存します。

◆ 朱書きファイル名設定:ダイアログ

機能

保存する朱書きファイルのファイル名を設定します。



説明

[朱書きファイル名]スタティックテキスト

朱書きファイル名を表示します。

[予約語]スタティックテキスト

予約語を表示します。

[日付]リストボックス

日付を設定します。

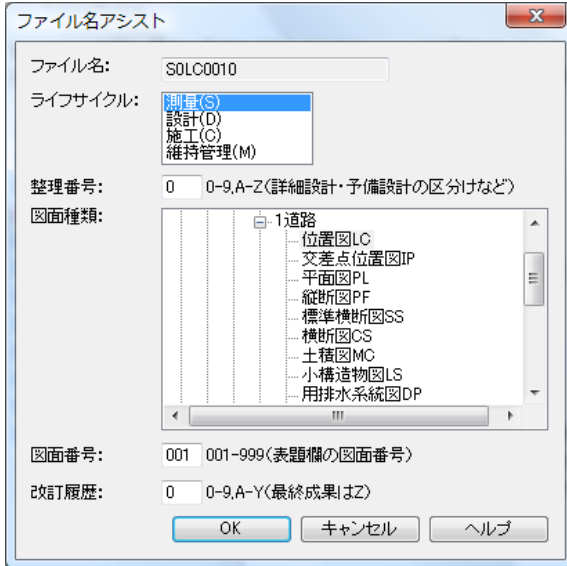
[管理番号]エディットボックス

管理番号を設定します。

◆ ファイル名アシスト:ダイアログ

機能

CAD 製図基準に対応したファイル名の生成を行います。



説明

[ファイル名]スタティックテキスト

作成されるファイル名を表示します。

[ライフサイクル]リストボックス

ライフサイクルを選択します。

[整理番号]エディットボックス

整理番号を入力します。

[図面種類]ツリービュー

図面種類を選択します。

[図面番号]エディットボックス

図面番号を入力します。

[改訂履歴]エディットボックス

改訂履歴を入力します。

5 朱書き送信

『ファイルー朱書き送信』

機能

電子メールの設定をしている場合、ファイルを電子メールで送信します。
朱書きファイルのみ電子メールで送信します。

操作方法

1. 作業中のファイルを電子メールで送信します。

ヒント

電子メールの設定をしていない場合、このコマンドはご利用できません。

3

朱書きモード『作図』

3章 朱書きモード『作図』

連続線、楕円、吹出など朱書き要素を作図します。

連続線 つながった線分を連続して作図します。

楕円 矩形範囲を指示して楕円を作図します。

文字 文字を作図します。

スプライン 曲線を作図します。

吹出 吹出を作図します。

引出 引出を作図します。

レ点 レ点マークを作図します。

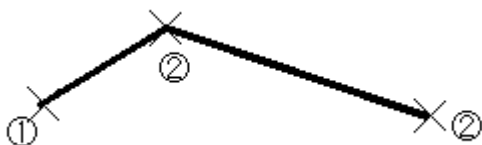
修正値作図 (V-nas コマンドリファレンスの『施工－修正値作図』を参照)

1 連続線

『作図－連続線』

機能

つながった線分を連続して作図します。



操作方法

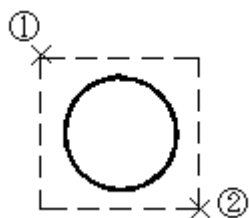
1. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)

2 楕円

『作図－楕円』

機能

矩形範囲を指示して楕円を作図します。



操作方法

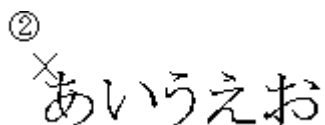
1. 矩形左上の頂点を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 矩形右下の頂点を指示して下さい。【座標指示モード】

3 文字

『作図—文字』

機能

文字を作図します。



操作方法

1. 文字を入力して下さい。【文字入力:ダイアログ】
2. 文字配置位置を指示して下さい。【座標指示モード】

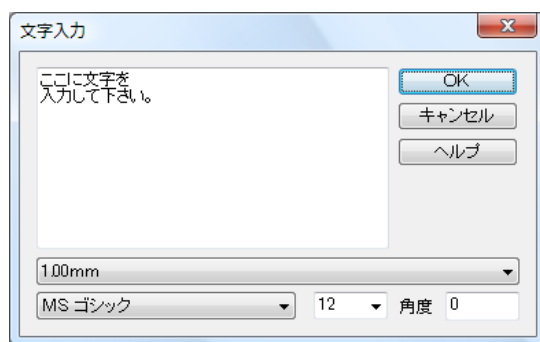
ヒント

配置位置の基準点は文字の左上です。
文字は複数行描くことができます。

◆ 文字入力:ダイアログ

機能

文字を入力します。



説明

【文字入力】エディットボックス

文字を入力します。

【履歴】コンボボックス

過去に入力した文字を 10 回分保持しています。
選択すると、[文字入力]エディットボックスに入力されます。
同じ文字を何回も作図する際に、利用して下さい。

【フォント】コンボボックス

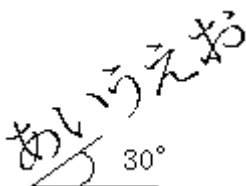
フォントを選択します。

【サイズ】ボタン

フォントのサイズを選択します。

【角度】エディットボックス

文字の角度を入力します。
このエディットボックスは『作図－文字』にのみ有効です。

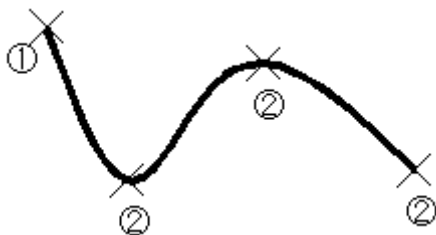


4 スプライン

『作図－スプライン』

機能

スプラインを作図します。



操作方法

1. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】

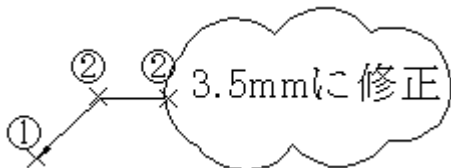
5 吹出

5-1 雲形吹出

『作図－吹出－雲形』

機能

雲形の吹出を作図します。



操作方法

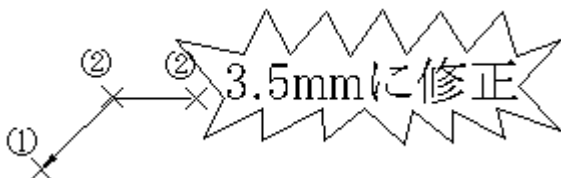
1. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】
3. 文字入力をして下さい。【文字入力:ダイアログ】

5-2 爆発形吹出

『作図－吹出－爆発形』

機能

爆発形の吹出を作図します。



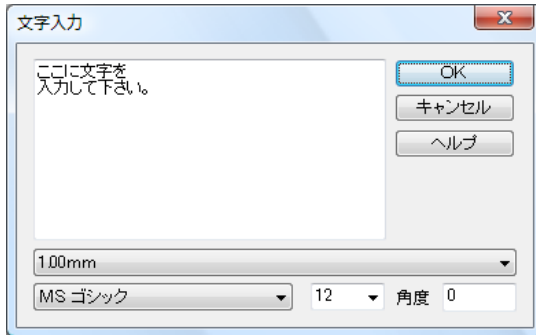
操作方法

1. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】
3. 文字入力をして下さい。【文字入力:ダイアログ】

◆ 文字入力:ダイアログ

機能

文字を入力します。



説明

【文字入力】エディットボックス

文字を入力します。

【履歴】コンボボックス

過去に入力した文字を 10 回分保持しています。
選択すると、[文字入力]エディットボックスに入力されます。
同じ文字を何回も作図する際に、利用して下さい。

【フォント】コンボボックス

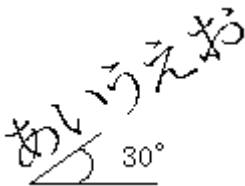
フォントを選択します。

【サイズ】ボタン

フォントのサイズを選択します。

【角度】エディットボックス

文字の角度を入力します。
このエディットボックスは『作図－文字』にのみ有効です。



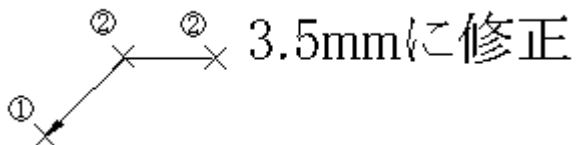
6 引出

6-1 矢印形引出

『作図－引出－矢印』

機能

矢印形の引出を作図します。



操作方法

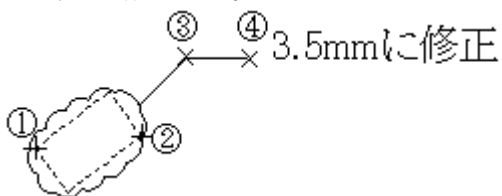
1. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】
3. 文字入力をして下さい。【文字入力:ダイアログ】

6-2 雲形引出

『作図－引出－雲形』

機能

雲形の引出を作図します。



操作方法

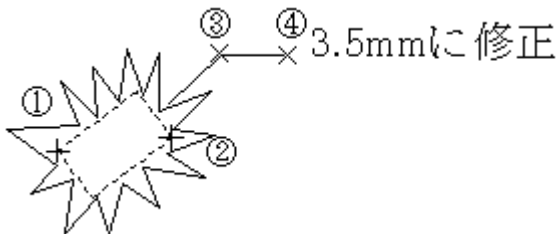
1. 矩形配置左上位置を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 矩形配置右下位置を指示して下さい。【座標指示モード】
3. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
4. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】
5. 文字入力をして下さい【文字入力:ダイアログ】

6-3 爆発形引出

『作図－引出－爆発形』

機能

爆発形の引出を作図します。



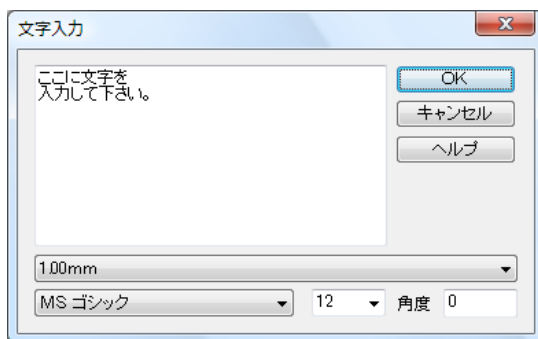
操作方法

1. 矩形配置左上位置を指示して下さい。【座標指示モード】
2. 矩形配置右下位置を指示して下さい。【座標指示モード】
3. 1点目を指示して下さい。【座標指示モード】
4. 次の点を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】
5. 文字入力をして下さい【文字入力:ダイアログ】

◆ 文字入力:ダイアログ

機能

文字を入力します。



説明

【文字入力】エディットボックス

文字を入力します。

[履歴]コンボボックス

過去に入力した文字を 10 回分保持しています。
選択すると、[文字入力]エディットボックスに入力されます。
同じ文字を何回も作図する際に、利用して下さい。

[フォント]コンボボックス

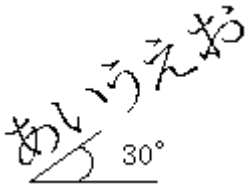
フォントを選択します。

[サイズ]ボタン

フォントのサイズを選択します。

[角度]エディットボックス

文字の角度を入力します。
このエディットボックスは『作図－文字』にのみ有効です。



7レ点

『作図－レ点』

機能

レ点マークを作図します。



操作方法

1. 配置中心点を指示して下さい。【座標指示モード】

4

朱書きモード『編集』

4章 朱書きモード『編集』

本ソフトウェアにて作図した要素に対して編集を加えます。

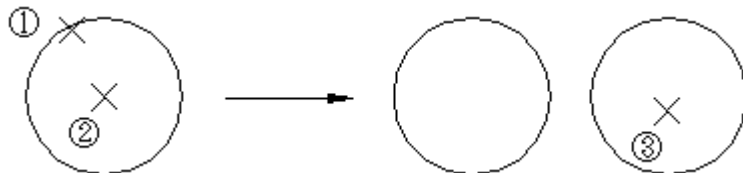
アンドゥ	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－アンドゥ』を参照)
リドゥ	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－リドゥ』を参照)
切り取り	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－切り取り』を参照)
コピー	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－コピー』を参照)
貼り付け	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－貼り付け』を参照)
削除	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－削除』を参照)
複写	選択した要素を複写します。
移動	選択した要素を移動します。
吹出移動	吹出要素を移動します。
引出移動	引出要素を移動します。
削除	選択した要素を消去します。
クリップボード	(V-nas コマンドリファレンスの『編集－クリップボードコピー』を参照)
属性変更	要素属性を変更します。

1 複写

『編集—複写』

機能

選択した要素を複写します。



操作方法

1. 複写する要素を選択して下さい。(右ボタンで終了)【要素選択モード】
2. 基準点を指示して下さい。【座標指示モード】
3. 配置位置を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】

ヒント

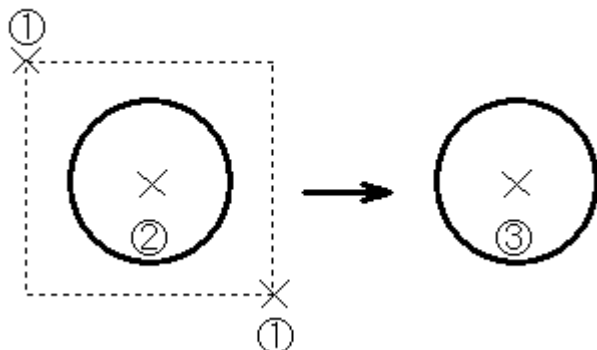
朱書き要素のみ複写することができます。

2 移動

『編集—移動』

機能

選択した要素を移動します。



操作方法

1. 移動する要素を選択して下さい。(右ボタンで終了)【要素選択モード】
2. 基準点を指示して下さい。【座標指示モード】
3. 配置位置を指示して下さい。(右ボタンで終了)【座標指示モード】

ヒント

朱書き要素のみ移動することができます。

3 吹出移動

『編集—吹出移動』

機能

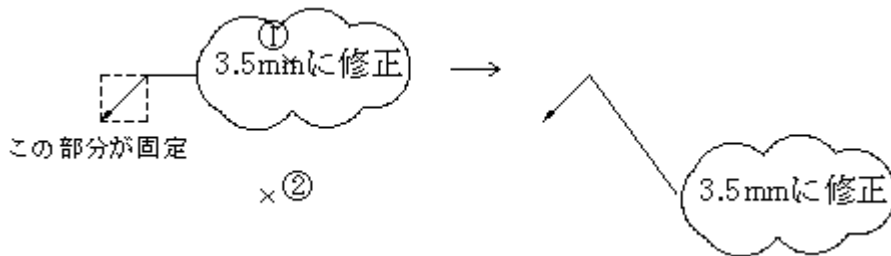
吹出要素を移動します。

操作方法

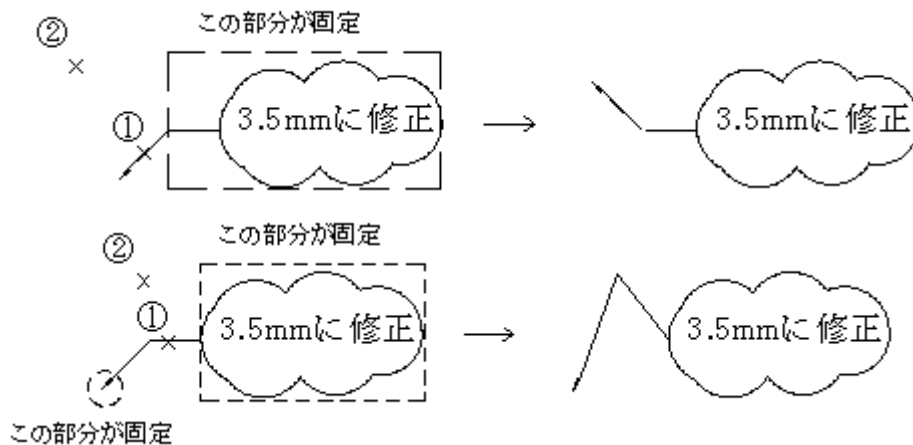
1. 吹出要素を選択して下さい。【要素選択モード】
2. 配置位置を指示して下さい。【座標指示モード】

ヒント

吹出要素を選択する際、指示した箇所によって、固定する部分と配置基準点が変わります。
[文字の部分を選択した場合]



[線の部分を指示した場合]



4 引出移動

『編集—引出移動』

機能

引出要素を移動します。

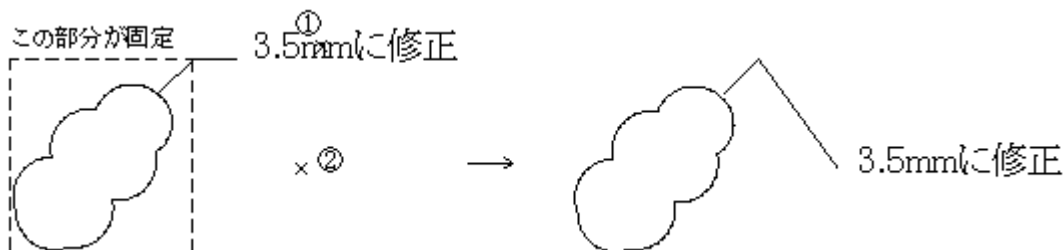
操作方法

1. 引出要素を選択して下さい。【要素選択モード】
2. 配置位置を指示して下さい。【座標指示モード】

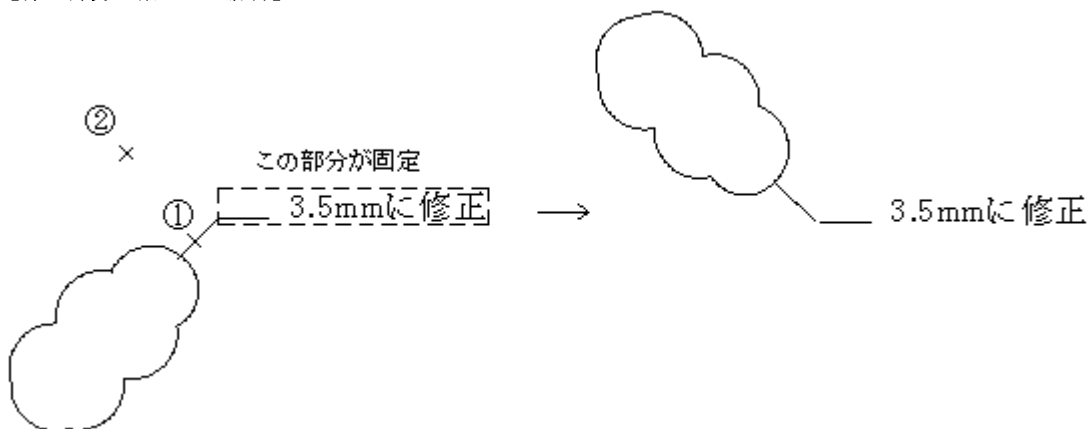
ヒント

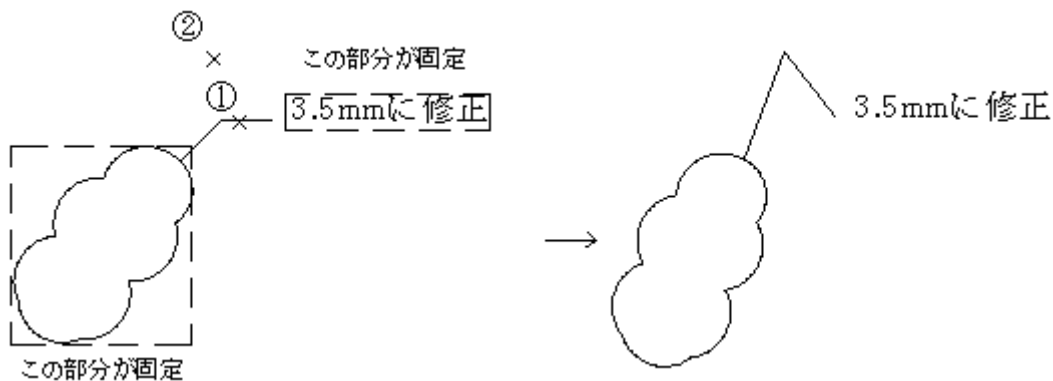
引出要素を選択する際、指示した箇所によって、固定する部分と配置基準点が変わります。

[文字の部分を選択した場合]



[線の部分を選択した場合]





5 削除

『編集－削除』

機能

選択した要素を削除します。

操作方法

1. 削除する要素を選択して下さい。(右ボタンで終了)【要素選択モード】

ヒント

朱書き要素のみ削除することができます。

6 属性変更

『編集－属性変更』

機能

要素属性の変更を行います。

操作方法

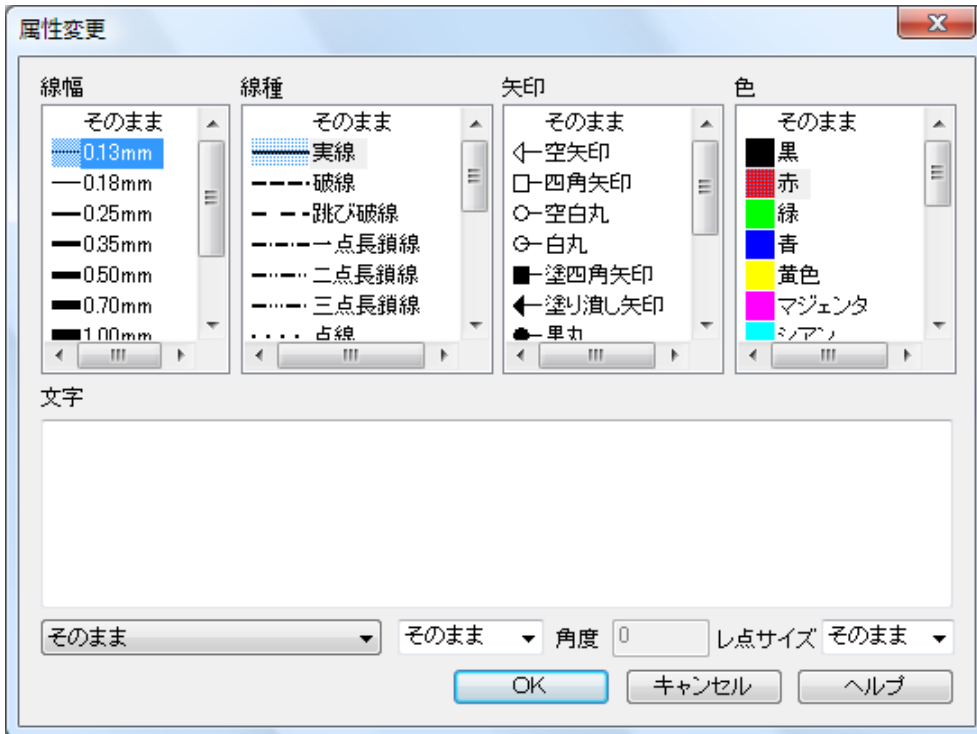
1. 変更する要素を選択して下さい。(右ボタンで終了)【要素選択モード】
2. 属性を変更して下さい。【属性変更:ダイアログ】

◆ 属性変更:ダイアログ

機能

要素の属性(線幅, 線種等)を変更します。

一つの要素の場合には、その要素の現在の属性が表示されますが、複数要素を一度に変更する場合は設定欄が(そのまま)と表示されます。(そのまま)が表示されている項目に関しては変更されません。ただし、[文字]エディットボックスは編集不可になります。



説明

[線幅]リストボックス

線幅を変更します。

[線種]リストボックス

線種を変更します。

[矢印]リストボックス

矢印を変更します。

この設定は、吹出, 矢印形引出に対して有効です。

[色]リストボックス

色を変更します。

[文字]エディットボックス

文字を変更します。

この設定は、文字, 吹出, 引出に対して有効です。

[フォント]コンボボックス

フォントを選択します。

この設定は、文字, 吹出, 引出に対して有効です。

[サイズ]コンボボックス

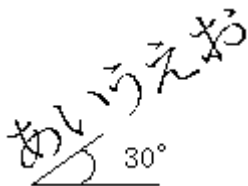
フォントのサイズを選択します。

この設定は、文字, 吹出, 引出に対して有効です。

[角度]エディットボックス

文字の角度を入力します。

この設定は、文字に対して有効です。



おいらんお
30°

5

朱書きモード『表示』

5章 朱書きモード『表示』

拡大やパンなどウィンドウから見えている作業エリアを変更します。

拡大	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－拡大』を参照)
縮小	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－縮小』を参照)
移動	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－移動』を参照)
範囲表示	V-nas の CAD モードにて登録した表示範囲にします。
基準画面	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－基準画面』を参照)
全体図	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－全体図』を参照)
直前の画面	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－直前の画面』を参照)
再表示	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－再表示』を参照)
ページ	(V-nas コマンドリファレンスの『表示－ページ』を参照)
朱書き	朱書き要素の表示・非表示を切り替えます。

1 範囲表示

『表示－範囲表示』

機能

V-nas の CAD モードにて登録した表示範囲にします。

操作方法

1. 表示範囲名を選択して下さい。【表示範囲の変更:ダイアログ】

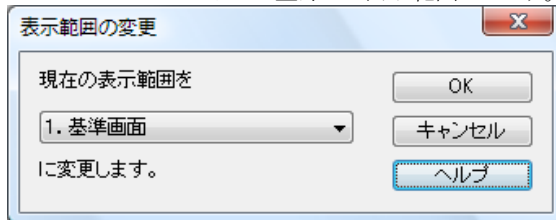
ヒント

ツールバーの[表示範囲の切り替え]ボタンと同じです。

◆ 表示範囲の変更:ダイアログ

機能

V-nas の CAD モードにて登録した表示範囲にします。



説明

【表示範囲】コンボボックス

表示範囲を選択します。

コンボボックスに表示される表示範囲は、V-nas の CAD モードの『表示－範囲－登録』で登録した表示範囲です。登録していない場合は、基準画面になります。

2 朱書き

『表示－朱書き』

機能

朱書き要素の表示・非表示を切り替えます。

操作方法

1. 朱書きの表示状態を切り替えます

6

朱書きモード『ツール』

6章 朱書きモード『ツール』

計測など作図のための道具です。

オプション	作図の初期値を設定します。 要素を作図する場合、色を何色にするかなどを設定します。
基準適合検査	図面が基準に適合しているか検査します。(CAD チェッカーがインストールされている場合に使用できます。)
レイヤ	(V-nas コマンドリファレンスの『編集—レイヤ』を参照)
文字検索	図面中の文字を検索します
計測	(V-nas コマンドリファレンスの『ツール—レイヤ』を参照)
要素情報	(V-nas コマンドリファレンスの『ツール—要素情報』を参照)
SXF 属性	(V-nas コマンドリファレンスの『編集—SXF 属性』を参照)
部分図テーブル	部分図テーブルを表示します。
座標系	座標系を表示します。
背景属性の変更	(V-nas コマンドリファレンスの『背景—属性変更』を参照)
ハイパーリンクを開く	(V-nas コマンドリファレンスの『ツール—ハイパーリンカー—ハイパーリンクを開く』を参照)

1 オプション

『ツールオプション』

機能

要素を作図した場合の属性(色, 線種, 線幅, 矢印など)を設定します。

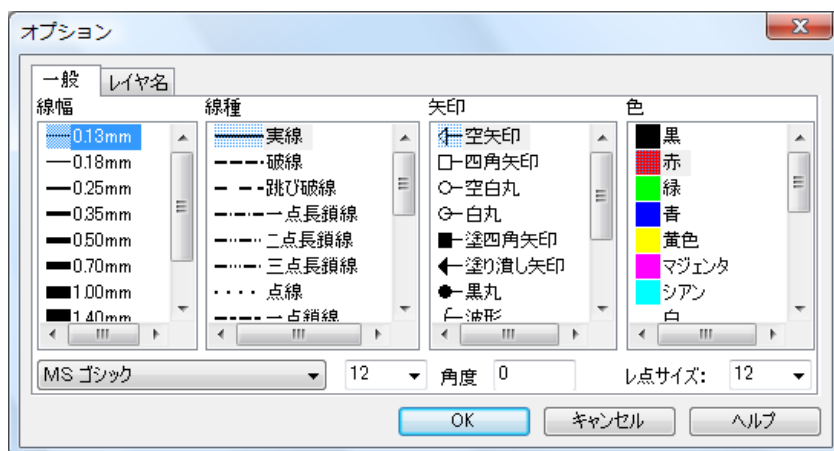
操作方法

- 1.属性を変更して下さい。【一般:タブ】, 【レイヤ名:タブ】

◆ 一般:タブ

機能

朱書き要素を作図した場合の属性(色, 線種, 線幅, 矢印など)を設定します。



説明

[線幅]リストボックス

要素を作図した場合の線幅を選択します。

[線種]リストボックス

要素を作図した場合の線種を選択します。

[矢印]リストボックス

要素を作図した場合の矢印を選択します。
この設定は、吹出, 引出に対して有効です。

[色]リストボックス

要素を作図した場合の色を選択します。

[フォント]コンボボックス

要素を作図した場合のフォントを選択します。
この設定は、文字、吹出、引出に対して有効です。

[サイズ]リストボックス

要素を作図した場合のフォントのサイズを選択します。
この設定は、文字、吹出、引出に対して有効です。

[角度]エディットボックス

要素を作図した場合の文字の角度を選択します。
この設定は、文字に対して有効です。

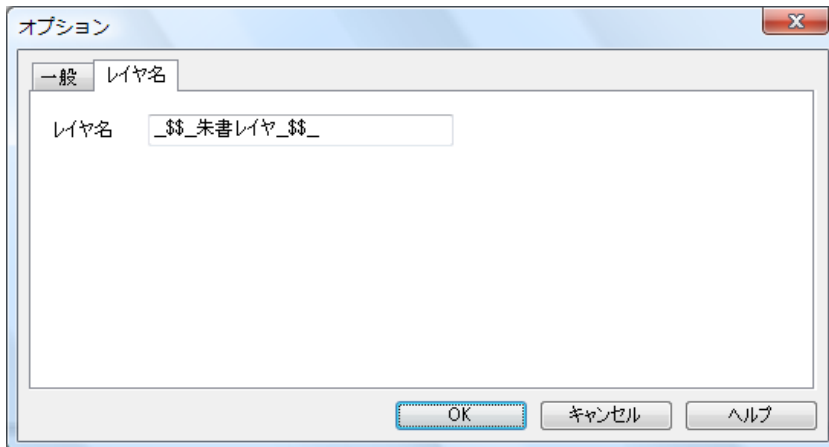
[レ点サイズ]コンボボックス

レ点マークを作図した場合のサイズを選択します。

◆ レイヤ名:タブ

機能

朱書き要素を作図した場合の属性(レイヤ名)を設定します。



説明

[レイヤ名]エディットボックス

要素を作図した場合のレイヤ名を設定します。

2 基準適合検査

『ツールー基準適合検査』

機能

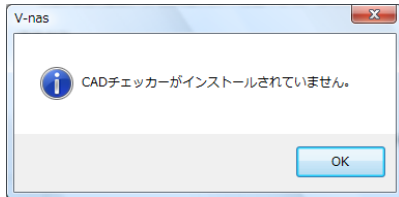
図面が基準に適合しているか検査します。(CADチェッカーがインストールされている場合に使用できます。)

操作方法

1. 条件設定をして下さい。【条件設定:ダイアログ】
2. 結果を表示します。【チェック結果:ダイアログ】

ヒント

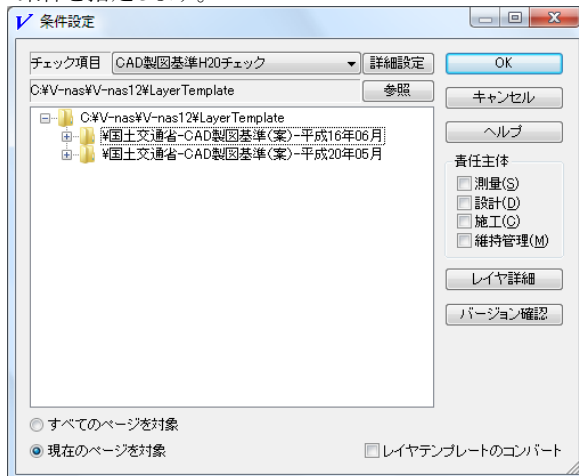
CADチェッカーがインストールされていない場合、以下のダイアログが表示され、使用できません。



◆ 条件設定:ダイアログ

機能

条件を指定します。



説明

【参照】スタティックテキスト

レイヤテンプレートの参照先を表示します。

[参照]ボタン

レイヤテンプレートの参照先を変更します。【フォルダの参照:ダイアログ】

[チェック項目一覧]ツリービュー

レイヤテンプレートを選択します。

[すべてのページを対象],[現在のページを対象]ラジオボタン

基準適合検査の対象とするページを設定します。

[OK]ボタン

基準適合検査を実行します。【チェック結果:ダイアログ】

[責任主体]グループ

責任主体を選択します。

[測量][設計][施工][維持管理]チェックボックス

責任主体を選択します。

[詳細]ボタン

選択したレイヤテンプレートの詳細を表示します。【レイヤテンプレート詳細:ダイアログ】

[責任主体]グループで選択した責任主体のレイヤテンプレートにあるレイヤのみ表示します。

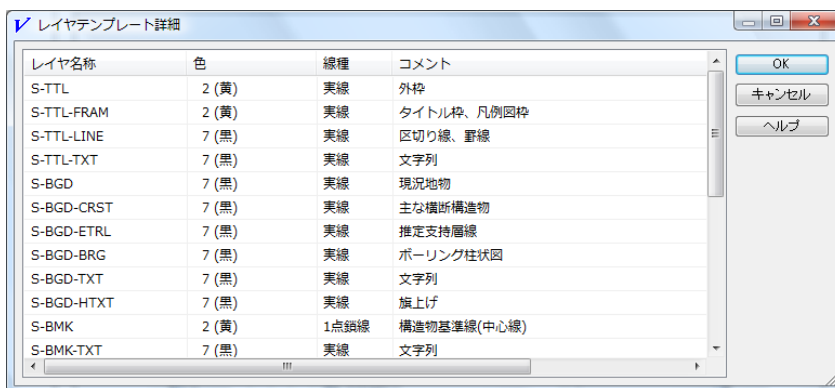
[チェック項目]ボタン

基準適合チェックのチェック項目の設定を行います。【チェック項目:ダイアログ】

◆ レイヤテンプレート詳細:ダイアログ

機能

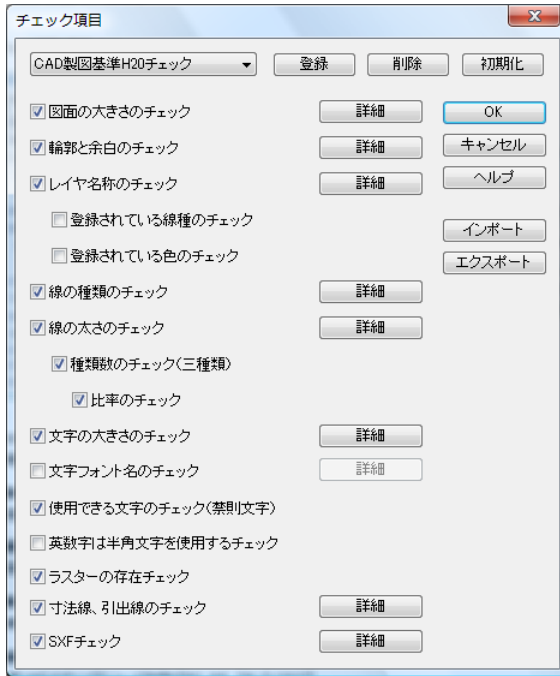
レイヤテンプレートに含まれるレイヤの詳細情報を表示します。



◆ チェック項目:ダイアログ

機能

チェック項目を選択します。



説明

【チェック項目】コンボボックス

詳細を設定するチェック項目を表示します。

【図面の大きさのチェック】チェックボックス

図面のサイズのチェックを行うか設定します。

【詳細】ボタン

図面サイズのチェックについて詳細を設定します。【図面サイズ:ダイアログ】

【輪郭と余白のチェック】チェックボックス

輪郭と余白のチェックを行うか設定します。

【詳細】ボタン

輪郭と余白のチェックについて詳細を設定します。【枠:ダイアログ】

【レイヤ名称のチェック】チェックボックス

レイヤ名称のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

レイヤ名称のチェックについて詳細を設定します。【レイヤ:ダイアログ】

[登録されている線種のチェック]チェックボックス

線種のチェックを行うか設定します。

[登録されている色のチェック]チェックボックス

色のチェックを行うか設定します。

[線の種類のチェック]チェックボックス

線の種類のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

線の種類のチェックについて詳細を設定します。【線種:ダイアログ】

[線の太さのチェック]チェックボックス

線の太さのチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

線の太さのチェックについて詳細を設定します。【線幅:ダイアログ】

[種類数のチェック(三種類)]チェックボックス

線幅の種類数のチェックを行うか設定します。

[比率のチェック]チェックボックス

線幅の比率のチェックを行うか設定します。

[文字の大きさのチェック]チェックボックス

文字の大きさのチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

文字の大きさのチェックについて詳細を設定します。【文字サイズ:ダイアログ】

[文字フォント名のチェック]チェックボックス

文字フォント名のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

文字フォント名のチェックについて詳細を設定します。【フォント名:ダイアログ】

[使用できる文字のチェック(禁則文字)]チェックボックス

使用できる文字のチェックを行うか設定します。

[英数字は半角文字を使用するチェック]チェックボックス

英数字は半角文字を使用するチェックを行うか設定します。

[ラスターの存在のチェック]チェックボックス

ラスターの存在のチェックを行うか設定します。

[寸法線・引出線のチェック]チェックボックス

寸法線・引出線のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

寸法線・引出線のチェックについて詳細を設定します。【寸法線・引出線:ダイアログ】

[SXF ファイルのチェック]チェックボックス

SXF ファイルのチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

SXF ファイルのチェックについて詳細を設定します。【SXF ファイルチェック:ダイアログ】

[登録]ボタン

【チェック項目:ダイアログ】で設定した内容を、チェック項目として登録します。【保存名の設定:ダイアログ】

[削除]ボタン

【チェック項目】コンボボックスで選択したチェック項目を削除します。

[初期化]ボタン

【チェック項目:ダイアログ】で設定した内容をすべて初期状態に戻します。登録したチェック項目はすべて削除されます。

[インポート]ボタン

エクスポートした外部ファイルを【チェック項目:ダイアログ】にインポートします。【インポート:ダイアログ】

[エクスポート]ボタン

【チェック項目:ダイアログ】で設定した内容を、外部ファイルにエクスポートします。【エクスポート:ダイアログ】

◆ 図面サイズ:ダイアログ

機能

使用可能な図面サイズを設定します。



説明

[図面サイズ]リスト

図面サイズを選択します。

[名称]エディットボックス

図面サイズの名称を入力します。

[高さ]エディットボックス

図面の高さを入力します。

[幅]エディットボックス

図面の幅を入力します。

[追加]ボタン

[図面サイズ]リストの最下行に図面サイズを追加します。図面サイズの名称・高さ・幅は[名称][高さ][幅]エディットボックスの入力値となります。

[削除]ボタン

[図面サイズ]リストの選択された図面サイズを削除します。

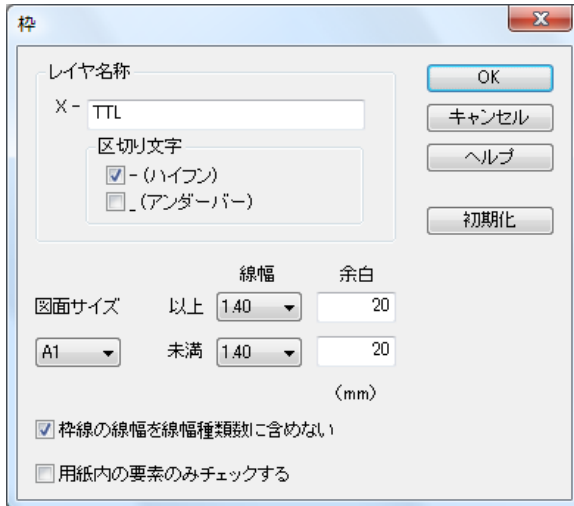
[初期化]ボタン

[図面サイズ:ダイアログ]で設定した項目をすべて初期化します。追加した図面サイズはすべて削除されます。

◆ 枠:ダイアログ

機能

検査する枠線の設定をします。



説明

[レイヤ名称]グループ

枠のレイヤ名を設定します。ここで設定した枠のレイヤに含まれる要素を枠線とみなし、正しい余白が設定されているかチェックします。

[レイヤ名称]エディットボックス

枠のレイヤ名を設定します。このエディットボックスには、レイヤ名の内、「ライフサイクル(S,D,C,M)」と「ライフサイクルの直後の区切り文字(-,_)」を除いた部分を入力します。ライフサイクルの直後の区切り文字は、[区切り文字]グループで設定します。

[区切り文字]グループ

ライフサイクルの直後の区切り文字を設定します。

[- (ハイフン)]チェックボックス

区切り文字を- (ハイフン) に設定します。

[_ (アンダーバー)]チェックボックス

区切り文字を_ (アンダーバー) に設定します。

[図面サイズ]コンボボックス

図面サイズを選択します。

[線幅]コンボボックス

[図面サイズ]コンボボックスの設定サイズ以上の場合と未満の場合に分けて、線幅を設定します。[以上]のコンボボックスに 1.40 を入力して、[以下]のコンボボックスに 1.00 を入力した場合、A1 サイズ以上の図面 (A1,A0 等)は線幅 1.40mm に、A1 未満の図面 (A2,A3 等)は線幅 1.00mm に設定されます。

[余白]エディットボックス

[図面サイズ]コンボボックスの設定サイズ以上の場合と未満の場合に分けて、余白を設定します。[以上]のエディットボックスに 20 を入力して、[以下]のエディットボックスに 10 を入力した場合、A1 サイズ以上の図面 (A1,A0 等)は余白 20mm に、A1 未満の図面 (A2,A3 等)は余白 10mm に設定されます。

[枠線の線幅を線幅種類数に含めない]チェックボックス

枠線の線幅を線幅種類数に含めるか設定します。

[用紙内の要素のみチェックする]チェックボックス

用紙内の要素のみチェックするか設定します。

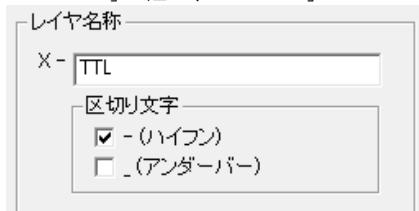
[初期化]ボタン

【枠:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

ヒント

・レイヤ名称の設定例

「D-TTL」を枠のレイヤとして設定する場合、下図のように設定します。また、このように設定した場合は、「D-TTL」の他に、「S-TTL」「C-TTL」「M-TTL」なども枠のレイヤとして設定されます。



レイヤ名称

X - TTL

区切り文字

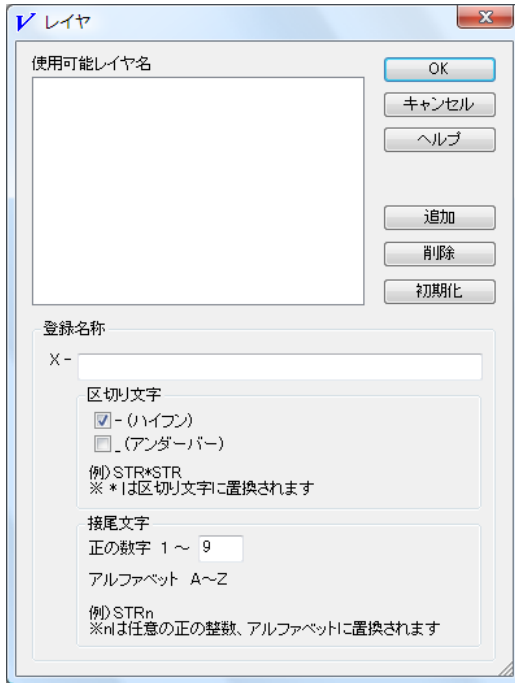
- (ハイフン)

_ (アンダーバー)

◆ レイヤ:ダイアログ

機能

使用可能なレイヤ名を設定します。



説明

【使用可能レイヤ名】リスト

使用可能なレイヤ名 (チェックの対象外とするレイヤ名) を設定します。

ここで設定したレイヤに存在する要素は、レイヤ名称のチェックの対象外になります。

通常は、選択したレイヤテンプレートに存在しないレイヤに要素が含まれている場合、【チェック結果:ダイアログ】にメッセージ「基準外のレイヤ[(レイヤ名称)]に要素が含まれています。」が表示されます。ただし、そのレイヤ名がここに設定されている場合は、レイヤ名称のチェックの対象外となる為、メッセージは表示されなくなります。

【登録名称】グループ

使用可能なレイヤ名 (チェックの対象外とするレイヤ名) と接尾文字を設定します。

【レイヤ名称】エディットボックス

使用可能なレイヤ名 (チェックの対象外とするレイヤ名) を設定します。このエディットボックスには、レイヤ名の内、「ライフサイクル(S,D,C,M)」と「ライフサイクルの直後の区切り文字(-,_)」を除いた部分を入力します。

ライフサイクル直後の区切り文字以外の区切り文字は、「*」で入力します。区切り文字として使用する文字は、[区切り文字]グループで設定します。

接尾文字は、「n」で入力します。接尾文字として使用する文字は、[接尾文字]グループで設定します。

[区切り文字]グループ

ライフサイクルの直後の区切り文字を設定します。

[-(ハイフン)]チェックボックス

区切り文字を-(ハイフン)に設定します。

[_(アンダーバー)]チェックボックス

区切り文字を_(アンダーバー)に設定します。

[接尾文字]グループ

レイヤ名の最後につける接尾文字を設定します。接尾文字として使用できる文字は、アルファベット「A～Z」と整数「1～20」です。整数は[正の数字]エディットボックスで設定します。

[正の数字]エディットボックス

レイヤ名に使用可能な数字を指定します。使用できる数字は、整数「1～20」です。

[追加]ボタン

[使用可能レイヤ名]リストの最下行にレイヤ名を追加します。レイヤ名は、[レイヤ名称]エディットボックスの入力値となります。

[削除]ボタン

[使用可能レイヤ名]リストの選択されたレイヤ名を削除します。

[初期化]ボタン

[レイヤ:ダイアログ]で設定した項目をすべて初期化します。追加したレイヤ名はすべて削除されます。

ヒント

・登録名称の設定例

「C_AAA_BBB1」、「C_AAA_BBB2」、「C_AAA_BBB3」を使用可能レイヤとして設定する場合、下図のように設定し[追加]ボタンを押します。また、このように設定した場合は、レイヤ名が「X_AAA_BBBn」(ただし、すべてのライフサイクルで、n=1~3 または n=A~Z)に該当するすべてのレイヤに含まれる要素が、レイヤ名称のチェックの対象外となります。

登録名称

X - OTRS

区切り文字

- (ハイフン)

_ (アンダーバー)

例) STR*STR
※ *は区切り文字に置換されます

接尾文字

正の数字 1 ~ 9

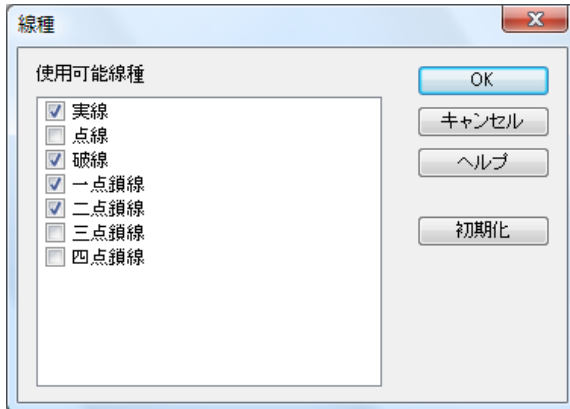
アルファベット A~Z

例) STRn
※nは任意の正の整数、アルファベットに置換されます

◆ 線種:ダイアログ

機能

使用可能な線種を設定します。



説明

[使用可能線種]リスト

線種を選択します。使用可能な線種にチェックを入れます。

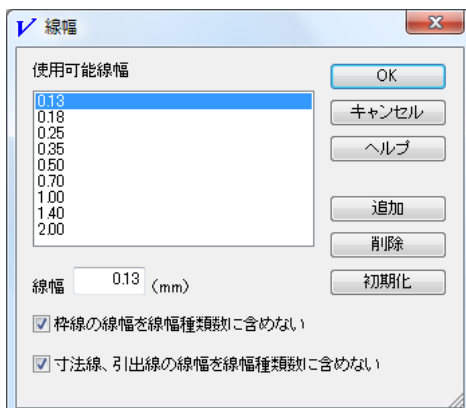
[初期化]ボタン

【線種:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

◆ 線幅:ダイアログ

機能

使用可能な線幅を設定します。



説明

[使用可能線幅]リスト

線幅を選択します。

[線幅]エディットボックス

線幅を入力します。

[枠線の線幅を線幅種類数に含めない]チェックボックス

枠線の線幅を線幅種類数に含めるか設定します。

[追加]ボタン

[使用可能線幅]リストに線幅を追加します。線幅は、[線幅]エディットボックスの入力値となります。

[削除]ボタン

[使用可能線幅]リストの選択された線幅を削除します。

[初期化]ボタン

[線幅:ダイアログ]で設定した項目をすべて初期化します。追加した線幅はすべて削除されます。

◆ 文字サイズ:ダイアログ

機能

使用可能な文字サイズを設定します。



説明

[使用可能文字サイズ]リスト

文字サイズ(文字高)を選択します。

[高さ]エディットボックス

文字サイズを入力します。

[追加]ボタン

[使用可能文字サイズ]リストに線幅を追加します。文字サイズは、[高さ]エディットボックスの入力値となります。

[削除]ボタン

[使用可能文字サイズ]リストの選択された線幅を削除します。

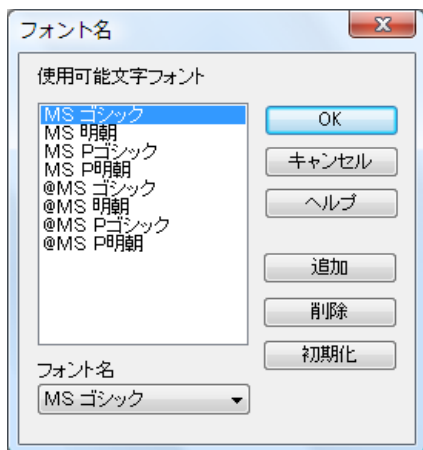
[初期化]ボタン

[文字サイズ:ダイアログ]で設定した項目をすべて初期化します。追加した文字サイズはすべて削除されます。

◆ フォント名:ダイアログ

機能

使用可能な文字フォントを設定します。



説明

[使用可能文字フォント]リスト

フォント名を選択します。

[フォント名]コンボボックス

追加するフォント名を選択します。

[追加]ボタン

[使用可能文字フォント]リストの最下行にフォント名を追加します。フォント名は、[フォント名]コンボボックスで選択した値となります。

[削除]ボタン

【使用可能文字フォント】リストの選択されたフォント名を削除します。

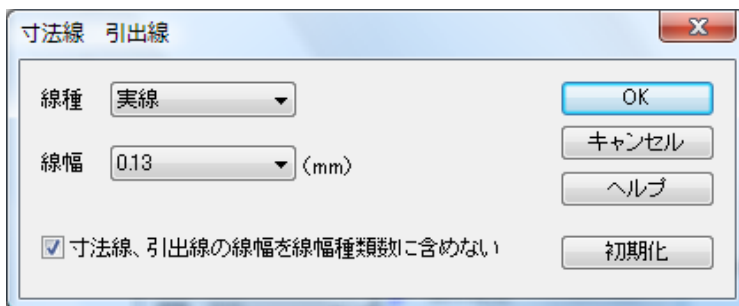
[初期化]ボタン

【フォント名:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。追加したフォント名はすべて削除されます。

◆ 寸法線・引出線:ダイアログ

機能

使用可能な文字フォントを設定します。



説明

[線種]コンボボックス

線種名を選択します。

[線幅]コンボボックス

線幅を選択します。

[寸法線、引出線の線幅を線幅種類に含めない]チェックボックス

ON の場合、寸法線、引出線の線幅を線幅種類のチェック対象から除きます。

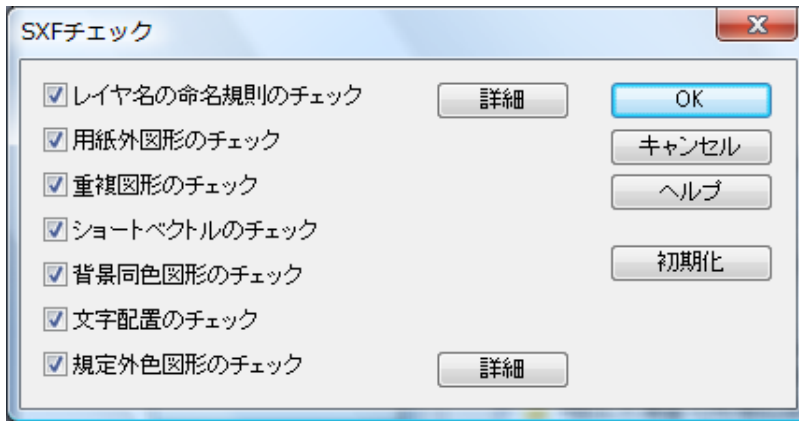
[初期化]ボタン

【寸法線・引出線:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

◆ SXF チェック:ダイアログ

機能

SXF チェック項目を選択します。



説明

[レイヤ名の命名規則のチェック]チェックボックス

レイヤ名の命名規則のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

レイヤ名の命名規則のチェックについて詳細を設定します。【レイヤ名命名規則:ダイアログ】

[用紙外図形のチェック]チェックボックス

用紙外図形のチェックを行うか設定します。

[重複図形のチェック]チェックボックス

重複図形のチェックを行うか設定します。

[ショートベクトルのチェック]チェックボックス

ショートベクトルのチェックを行うか設定します。

[背景同色図形のチェック]チェックボックス

背景同色図形のチェックを行うか設定します。

[文字配置のチェック]チェックボックス

文字配置のチェックを行うか設定します。

[既定外色図形のチェック]チェックボックス

既定外色図形のチェックを行うか設定します。

[詳細]ボタン

規定外色図形のチェックについて詳細を設定します。【規定外色チェック設定:ダイアログ】

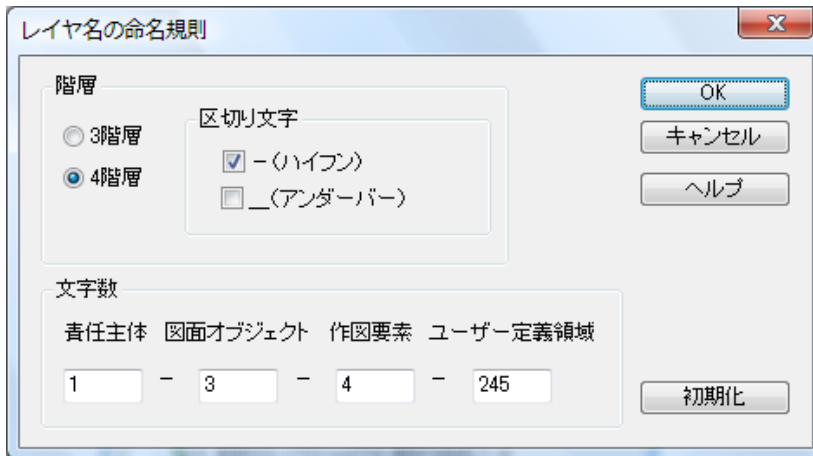
[初期化]ボタン

【SXF チェック:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

◆ レイヤ名の命名規則:ダイアログ

機能

レイヤ名の命名規則を設定します。



説明

[階層]グループ

[階層]ラジオボタン

ライフサイクルの直後の区切り文字を設定します。

[区切り文字]グループ

[区切り文字]チェックボックス

区切り文字を選択します。使用する区切り文字にチェックを入れます。

[文字数]グループ

[文字数]グループ

レイヤ文字数を入力します。

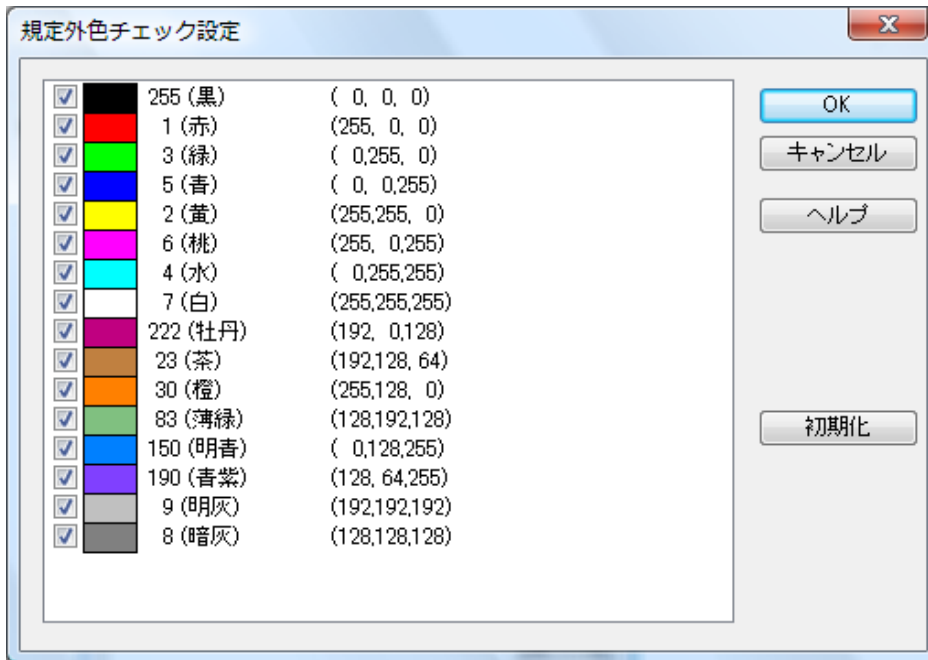
[初期化]ボタン

【レイヤ名の命名規則:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

◆ 既定外色チェック設定:ダイアログ

機能

既定外色を設定します。



説明

[使用不可色]リスト

色を選択します。使用可能な色にチェックを入れます。

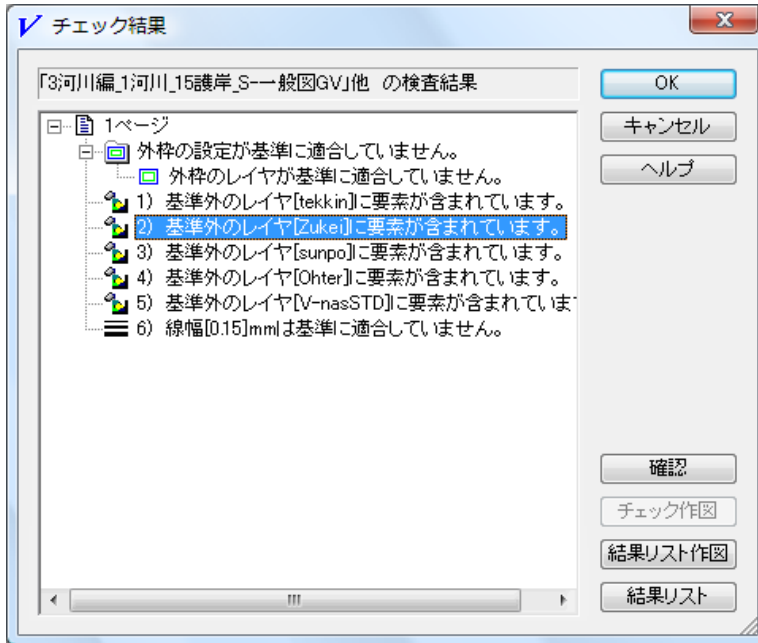
[初期化]ボタン

【規定外色チェック設定:ダイアログ】で設定した項目をすべて初期化します。

◆ チェック結果:ダイアログ

機能

基準適合検査の結果を一覧表示します。



説明

[図面の種類]スタティックテキスト

[条件設定:ダイアログ]にて選択した図面の種類を表示します。

[結果]ツリービュー

検査した結果を表示します。

[確認]ボタン

[結果]ツリービューにて選択した項目にあたる要素を選択色で表示します。

[チェック作図]ボタン

[結果]ツリービューにて選択した項目にあたる要素上に丸数字を作図します。
項目の頭にある番号が丸数字の番号になります。

[結果リスト作図]ボタン

図面に結果リストを作図します。

[結果リスト]ボタン

結果をテキストにコピーします。

3 文字検索

『ツール—文字検索』

機能

指定した文字列を検索します。文字、寸法線、引出線、バルーン要素に対して実行可能です。

操作方法

1. 検索対象要素を選択して下さい。(右ボタンで終了)【要素選択モード】
2. 検索する文字を指示して下さい。(右ボタンで終了)【文字列の検索:ダイアログ】

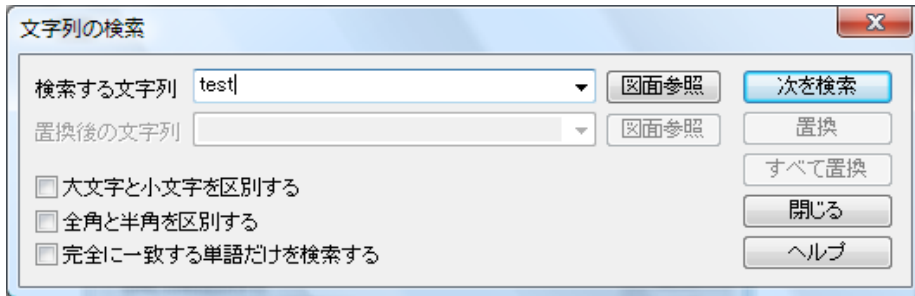
ヒント

複数行にまたがる文字列は文字列の一行分だけを検索対象とします。

◆ 文字列の検索:ダイアログ

機能

文字列の検索を行います。
朱書きモードでは文字列を置換することはできません。



説明

[検索する文字列]コンボボックス

検索する文字列を入力します。ドロップダウンリストを使用すると、これまでに指定した検索文字列を選択できます。

[図面参照]ボタン

検索文字列を図面上から取得します。【要素選択モード】

[大文字と小文字を区別する]チェックボックス

[検索する文字列]を、大文字と小文字を区別して正確に一致する文字列を検索します。

[全角と半角を区別する]チェックボックス

[検索する文字列]を、全角と半角を区別して正確に一致する文字列を検索します。

[完全に一致する単語だけを検索する]チェックボックス

[検索する文字列]を、文字列の一部ではなく、全体が完全に一致した単語だけを検索をします。

[次を検索する]ボタン

[検索する文字列]の次の対象文字列を検索します。

4 部分図テーブル

『ツールー部分図テーブル』

機能

SXF ファイルの部分図を作成するためのものです。

部分図とは、座標系とスケールを組み合わせたもので、X 軸と Y 軸に対して異なるスケールを設定することができます。

操作方法

1. 部分図テーブルを設定して下さい。【部分図テーブルの編集:ダイアログ】

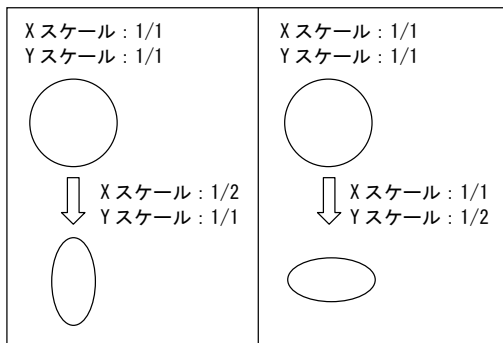
ヒント

V-nas では用紙上に要素を配置するのと同じ感覚で、部分図上に要素を配置することができます。部分図上に配置された要素は、その部分図の縮尺にしたがって表示させることもできます。

部分図は 1 物件毎に複数定義することができ、図面上に複数配置することができます。

部分図上に要素を配置した場合の基本的な動作(表示上の変形)を以下に示します。

朱書きモードでは参照のみ可能です。

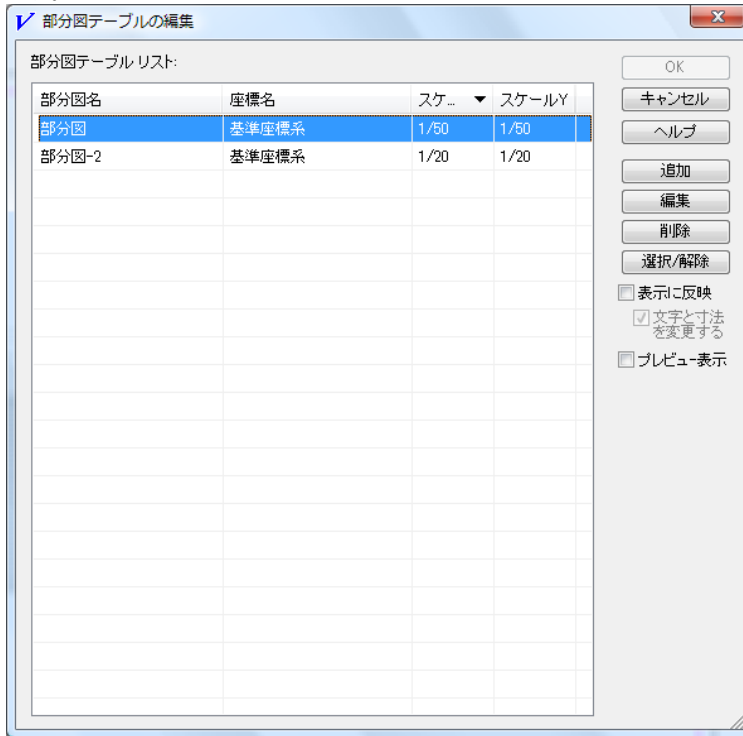


◆ 部分図テーブルの編集:ダイアログ

機能

部分図を追加します。SXF ファイルの部分図を作成するためのものです。

部分図とは、座標系とスケールを組み合わせたもので、X 軸と Y 軸に対して異なるスケールを設定することができます。



説明

[部分図テーブル]リスト

部分図名、座標系、スケール(X 方向, Y 方向)の順に表示します。

座標系が基準座標系で、スケールが X, Y とも 1/1 以外の要素を作図すると、名前なしの部分図が自動的に追加され、その部分図に要素が割り当てられます。

[追加]ボタン

部分図を追加します。【部分図の編集:ダイアログ】

[編集]ボタン

【部分図テーブル】リストにて選択した部分図を編集します。【部分図の編集:ダイアログ】

[削除]ボタン

【部分図テーブル】リストにて選択した部分図を削除します。

[選択/解除]ボタン

[部分図テーブル]リストにて選択した部分図に割り当ててる要素を選択, 解除します。

その部分図に割り当てられた要素が選択状態になっています。

選択状態になっていない要素をクリックすると, その部分図に割り当てます。

選択状態の要素をクリックすると, その部分図から解除し, 基準座標系で, スケールが X, Yとも 1/1 になります。

【要素選択モード】

[表示に反映]チェックボックス

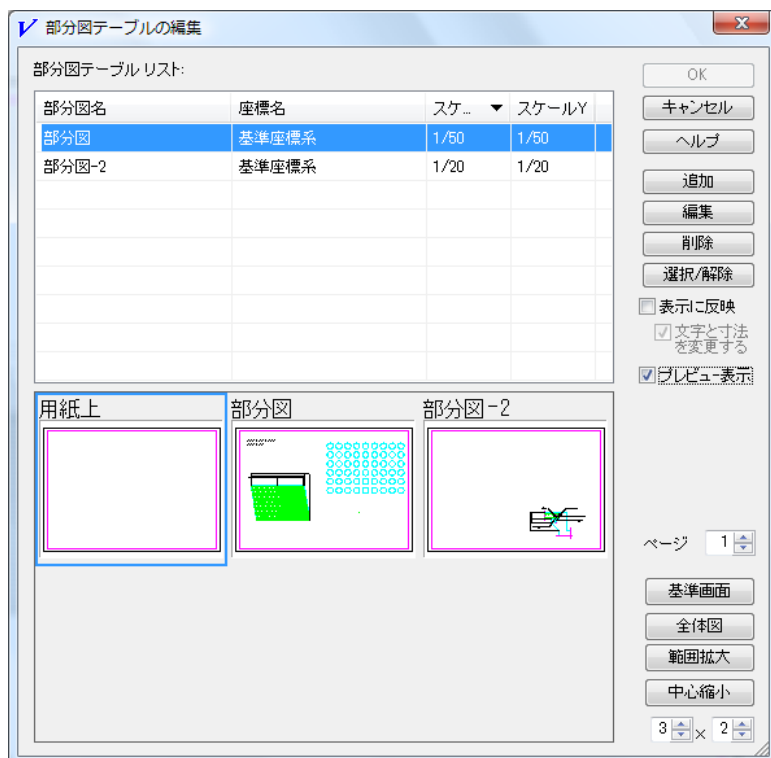
チェックONの状態ではダイアログを終了した場合, 部分図と関連付けられた要素は, その部分図の縮尺にしたがって表示されます。チェックOFFの状態ではダイアログを終了した場合, 要素の見た目に変更はありません。

[文字と寸法を変更する]チェックボックス

チェックONの状態ではダイアログを終了した場合, 部分図に関連付けられた文字及び寸法値もその部分図と同縮尺率で表示されます。

[プレビュー表示]チェックボックス

下図のように部分図テーブルごとにプレビューを表示します。



[全てのレイヤ]チェックボックス

ON の場合, すべての部分図テーブルをプレビュー表示します。

OFF の場合, [部分図テーブル]リストで選択したレイヤのみプレビュー表示します。

[ページ]エディットボックス

プレビュー表示するページを入力します。
右隣のスピンのボタンで1ページずつ増減します。

[基準画面]ボタン

選択した(青線で囲まれた)プレビュー画面にて、図面枠に戻して表示します。

[全体図]ボタン

選択した(青線で囲まれた)プレビュー画面にて、すべての要素が表示されるように拡大(縮小)率を設定し表示します。

[範囲拡大]ボタン

選択した(青線で囲まれた)プレビュー画面にて、指示した矩形範囲で拡大表示します。

[中心縮小]ボタン

選択した(青線で囲まれた)プレビュー画面にて、画面の中心点を中心に、設定された縮小率で縮小表示します。

[行・列]エディットボックス

プレビューを表示する数を入力します。右隣のスピンのボタンで1行・列ずつ増減します。

ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 部分図の追加:ダイアログ

機能

部分図を追加します。



説明

[名前]エディットボックス

名前を設定します。

[座標系]コンボボックス

座標系を選択します。選択できる座標系は『ツール座標系』で登録した座標系すべてです。

[スケール X, Y]コンボボックス

スケールを選択します。選択できるスケールは『設定スケール』で登録したスケールすべてです。

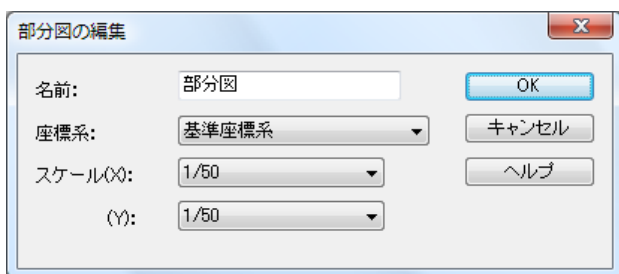
ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 部分図の編集:ダイアログ

機能

部分図を編集します。



説明

[名前]エディットボックス

名前を変更します。

[座標系]コンボボックス

座標系を変更します。選択できる座標系は『ツール座標系』で登録した座標系すべてです。

[スケール X, Y]コンボボックス

スケールを変更します。選択できるスケールは『設定スケール』で登録したスケールすべてです。

ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

5 座標系

『ツール—座標系』

機能

座標系を設定します。

操作方法

1. テンプレートを設定して下さい。【座標系の設定:ダイアログ】

ヒント

同一図面内に複数の座標系を混在させることができます。

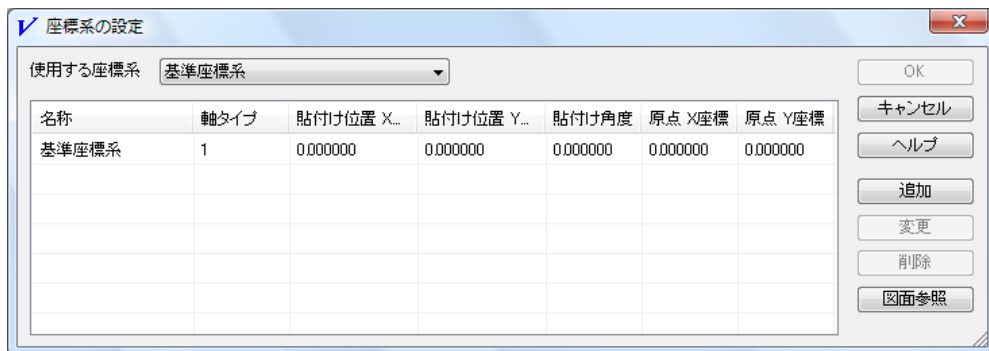
座標系は数学座標系と測量座標系が扱えますので、測量座標系で道路線形を作図し、数学座標系で構造物を作図するといった操作が簡単に行えます。

座標系はページ間で共通です。例えば 1 ページに貼り付けられた座標系は 2 ページ以降も有効です。朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 座標系の設定:ダイアログ

機能

座標系を表示します。



説明

【使用する座標系】コンボボックス

使用する座標系を表示します。

【座標系】リスト

名称、軸タイプ、貼り付け位置、貼り付け角度、原点の順に表示します。

[追加]ボタン

座標系を新たに追加します。

追加した座標系は[座標系]リストの1番下に表示されます。【座標系の設定:ダイアログ】

[変更]ボタン

[座標系]リストにて選択した座標系を変更します。

“基本座標系“は変更できません。【座標系の変更ダイアログ】

[削除]ボタン

[座標系]リストにて選択した座標系を削除します。

“基本座標系“は削除できません。

[図面参照]ボタン

図面より、使用する座標系を選択します。

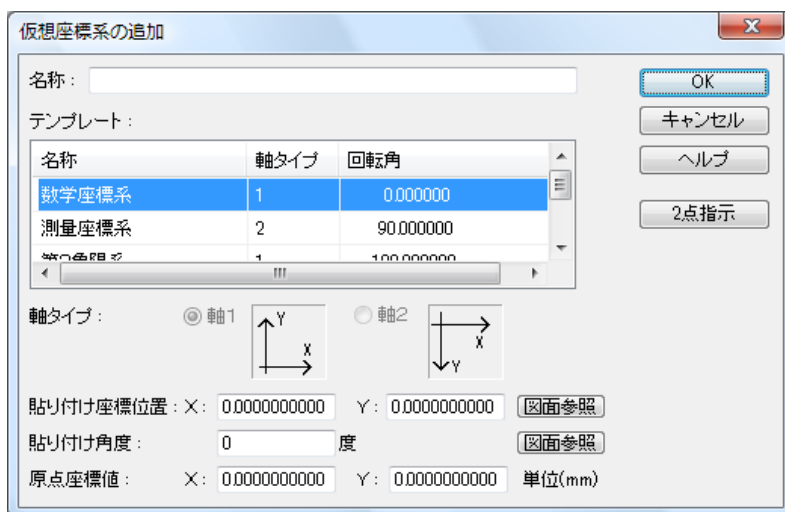
ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 座標系の追加:ダイアログ

機能

座標系を追加します。使用する座標系テンプレート、名称、貼り付け位置、貼り付け角度、原点座標値を設定します。



説明

[名称]エディットボックス

名称を設定します。

[テンプレート]リスト

座標系テンプレートをリストの中から選択します。

[軸タイプ]ラジオボタン

[座標系テンプレート]リストにて選択した座標系テンプレートの軸タイプを表示します。

[貼り付け座標位置]エディットボックス

座標系の基準を、どの位置に貼り付けるかを設定します。単位は mm で用紙上の大きさです。

[図面参照]ボタン

図面より、貼り付け座標位置を取得します。【座標指示モード】

[貼り付け角度]エディットボックス

貼り付ける座標系の回転角を設定します。基本の数学座標に対する反時計回りの角度です。
単位は度です。

[図面参照]ボタン

図面より、貼り付け角度を取得します。

[原点座標値]エディットボックス

新しく貼り付ける座標系の基準位置を座標値として何にするかを設定します。例えば X=400000、Y=10000 と入力すれば座標系の基準位置が(400000, 10000)となります。

[2点指示]ボタン

2点の座標位置と座標値を設定することにより、貼り付け座標位置、貼り付け角度、原点座標値を決定します。

【2点指示:ダイアログ】

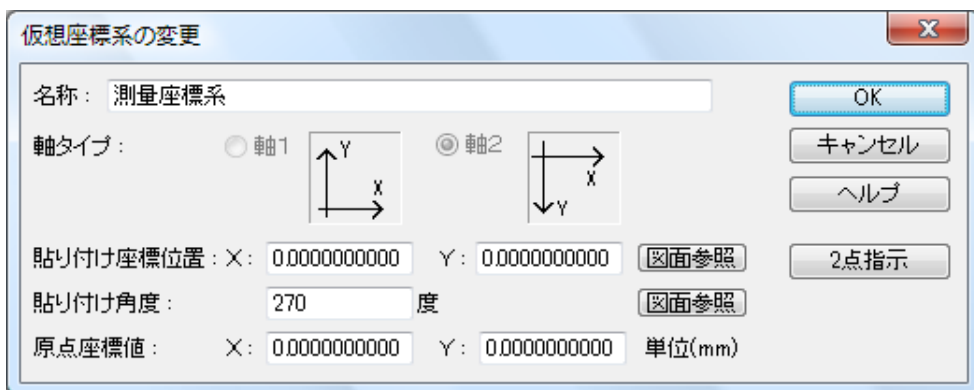
ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 座標系の変更:ダイアログ

機能

座標系を変更します。名称、軸タイプ、貼り付け座標位置、貼り付け角度、原点座標値を変更します。



説明

[名称]エディットボックス

名称を表示します。

[軸タイプ]ラジオボタン

[座標系テンプレート]リストにて選択した座標系テンプレートの軸タイプを表示します。

[貼り付け座標位置]エディットボックス

座標系の基準を、どの位置に貼り付けるかを変更します。
単位は mm で用紙上の大きさです。

[図面参照]ボタン

図面より、貼り付け座標位置を取得します。【座標指示モード】

[貼り付け角度]エディットボックス

貼り付ける座標系の回転角を変更します。基本の数学座標に対する反時計回りの角度です。
単位は度です。

[図面参照]ボタン

図面より、貼り付け角度を取得します。

[原点座標値]エディットボックス

貼り付ける座標系の基準位置を座標値として何にするかを変更します。例えば X=400000、Y=10000 と入力すれば座標系の基準位置が(400000, 10000)となります。

[2点指示]ボタン

2点の座標位置と座標値を設定することにより、貼り付け座標位置、貼り付け角度、原点座標値を決定します。

[2点指示:ダイアログ]

ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

◆ 2点指示:ダイアログ

機能

2点の座標位置と座標値を設定することにより、貼り付け座標位置、貼り付け角度、原点座標値を決定します。

説明

[図面上の座標]グループ

図面上の座標(基準座標系の絶対座標, スケール 1/1)を入力します。

[図面参照]ボタン

図面から座標を取得します。【座標指示モード】

[指定座標]グループ

これから指定する座標系上の座標を入力します。

[単位]グループ

指定座標の単位を選択します。

[スケール]コンボボックス

指定座標のスケールを選択します。

[誤差]スタティックテキスト

図面座標と指定座標との誤差を表示します。

ヒント

朱書きモードでは参照のみ可能です。

7

朱書きモード『設定』

7章 朱書きモード『設定』

図面の見栄えなど細かな表現方法を設定します。

表示	作業画面の表示形式を設定します。
マウス	(V-nas コマンドリファレンスの『設定－システム－マウス』を参照)
ツールパネル	(V-nas コマンドリファレンスの『設定－ユーザー設定－ツールパネル』を参照)
スケール	(V-nas コマンドリファレンスの『設定－システム－スケール』を参照)
bfo 変換	(V-nas コマンドリファレンスの『設定－ファイル変換－bfo 変換』を参照)
SXF 変換	SXF ファイル (拡張子 p21, sfc) を開く場合の設定を行います。
AutoCAD 変換	AutoCAD ファイル (拡張子 dwg, dxf) を開く場合の設定を行います。
その他	(V-nas コマンドリファレンスの『設定－その他』を参照)

1 表示

1-1 画面表示

『設定—表示—画面表示』

機能

作業画面の表示形式を設定します。

起動時の表示色、表示が小さい場合の省略限界、拡大率、マウスマーカーのサイズ等を指定します。

操作方法

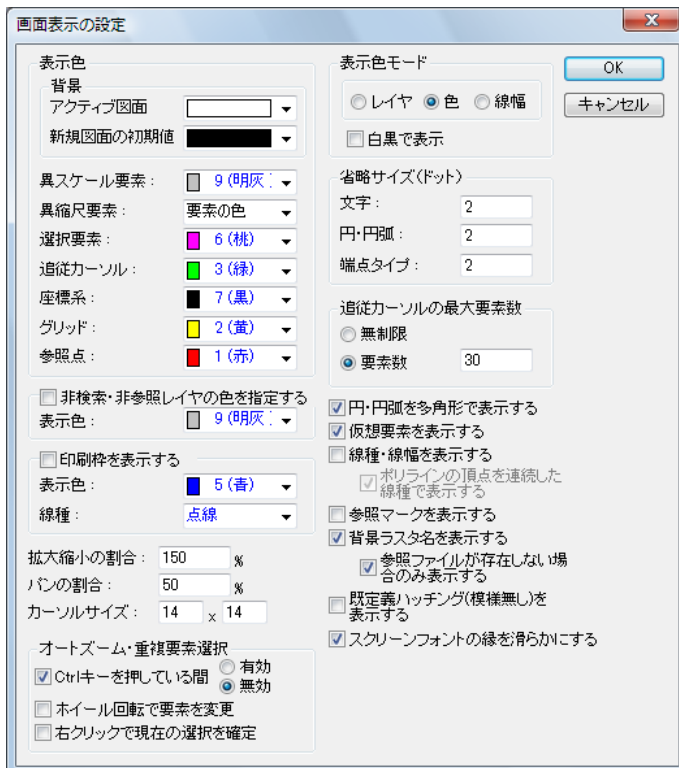
タイプを設定して下さい。【画面表示の設定:ダイアログ】

◆ 画面表示の設定:ダイアログ

機能

作業画面の設定を行います。

起動時の表示色、表示が小さい場合の省略限界、拡大率、マウスマーカーのサイズ等を指定します。



説明


[表示色]グループ

[背景]グループ

背景の色を設定します。背景色には自動白黒反転機能が付いています。

[アクティブ画面]コンボボックス

現在のアクティブな物件の背景色を設定します。

ツールバーの[背景色の設定]ボタン  と同じです。

[新規図面の初期化]コンボボックス

新規図面の背景色を設定します。

[異スケール要素]コンボボックス

アクティブスケールと異なるスケールの要素の色を設定します。

「要素の色」を選択した場合、スケールに関わらず要素の色で表示します。

[異縮尺要素]コンボボックス

異縮尺要素の色を設定します。

「要素の色」を選択した場合、要素の色で表示します。

[選択要素]コンボボックス

要素選択時に選択された要素の色を設定します。

[追従カーソル]コンボボックス

カーソルの動きにつれて動く場合の要素の色を設定します。

[座標系]コンボボックス

座標系の色を設定します。

[グリッド]コンボボックス

グリッドの色を設定します。

[参照点]コンボボックス

参照点(RP)の色を設定します。

[非検索・非参照レイヤの色を指定する]チェックボックス

[表示色]コンボボックス


非参照・非検索レイヤ要素の表示色を設定します。

[異スケール要素]、[異縮尺要素]コンボボックスで色が指定されていても、ここでの設定が優先されます。

[印刷枠を表示する]グループ

印刷枠の画面上での表示・非表示を設定します。

ON にすると、設定された表示色と線種で表示します。OFF にすると、表示されません。

印刷枠の表示・非表示の設定はツールバーの[印刷枠の表示切り替え]ボタンと同じです。

『ファイル印刷枠』で登録枠線の「枠線を画面に表示する」を ON にする必要があります。

[表示色]コンボボックス

印刷枠の色を設定します。

[線種]コンボボックス

印刷枠の線種を設定します。

[拡大縮小の割合]エディットボックス

拡大縮小の割合を設定します。単位は%です。100 が等倍です。

200 に設定すると、『表示－拡大』の『中心』または『1 点』を実行した場合、2 倍に拡大し、『表示－縮小』の『中心』または『1 点』を実行した場合、1/2 倍に縮小します。

通常 130 から 180 くらいに設定して下さい。

[パンの割合]エディットボックス

スクロールバーの矢印または箱の上下左右の領域をクリックした場合の移動量を設定します。単位は%です。

50%の場合は画面の半分ずつ移動します。

[カーソルサイズ]エディットボックス

要素選択などで、マウスカーソルの先に表示される四角い枠の大きさを設定します。余計な要素をなるべく選択しないようにするためには、カーソルサイズを小さくした方が操作性が向上します。単位はドットです。

[オートズーム・重複要素選択]グループ

『ウインドウオートズーム』または『ウインドウ重複要素選択』が ON の場合の動作を設定します。

[Ctrl キーを押している間]チェックボックス

[有効]ラジオボタン

<Ctrl>キーを押している間、オートズームウインドウまたは【重複要素選択:ダイアログ】を起動します。

[無効]ラジオボタン

<Ctrl>キーを押している間、オートズームウインドウまたは【重複要素選択:ダイアログ】を起動しません。

[ホイール回転で要素を変更]チェックボックス

要素選択モード時、ホイール回転で選択候補を切り替えます。(画面の拡大縮小は<Ctrl>キー+ホイール回転で可能です。)

[右クリックで現在の選択を確定]チェックボックス

要素選択モード時、右クリックで要素を確定します。

[表示色モード]グループ

V-nas には色を使った表現方法が4種類あります。この4種類を切り替えます。

[レイヤ・色・線幅]ラジオボタン

ON にしたモードの色で表示されます。

- ・レイヤ レイヤに割り当てた色で表示します。
- ・色 色で表示します。
- ・線幅 線幅に割り当てた色で表示します。

[白黒で表示]チェックボックス

ON にすると、白黒で表示します。

この場合、[レイヤ・色・線幅]ラジオボタンの設定は無視されます。

[省略サイズ(ドット)]グループ

画面表示を高速化するため判別のつかない大きさの表示を省略します。

[文字]エディットボックス

小さくなった場合の省略限界を画面上のドット高さで設定します。

[円・円弧]エディットボックス

小さくなった場合の省略限界を画面上のドット半径で設定します。

[端点タイプ]エディットボックス

小さくなった場合の省略限界を画面上のドット数で設定します。

[追従カーソルの最大要素数]グループ

要素の移動や複製等を行う場合に要素の形がマウスの動きにつれて動きます。これが追従カーソルです。選択した要素数が多くなると表示スピードがマウスの動きについてこれなくなるためにある程度の要素数で制限することができます。無制限とした場合には選択したすべての要素がマウスにつれて移動します。n要素とした場合にはそれ以上の要素は範囲を現す四角形で表現されます。

[要素数]エディットボックス

要素数を入力します。

[円・円弧を多角形で表示する]チェックボックス

ディスプレイは一般的に円や円弧を高速に描画する機能を搭載しています。しかしながらごくまれに円や円弧が正常に描画できないものが存在します。画面に表示しただけでエラーが発生するような場合はこのチェックボックスを ON にしてお試し下さい。ただし描画速度は若干低下します。

[仮想要素を表示する]チェックボックス

仮想要素の画面上での表示・非表示を設定します。

ON にすると、表示します。

[線種・線幅を表示する]チェックボックス

線種と線幅の画面上での表示・非表示を設定します。

ON にすると、線種は設定されたピッチで表示します。線幅も設定された線幅で表示します。ただし、表示速度は遅くなります。

OFF にすると、線種は一定のピッチで表示します。線幅も一定の線幅(細い線)で表示します。

※チェックボックスの設定パターン

ON: OFF: 3 ステート:

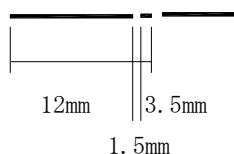
[ポリラインの頂点を連続した線種で表示する]チェックボックス

ポリラインの頂点にまたがる線種の表示形態を設定します。

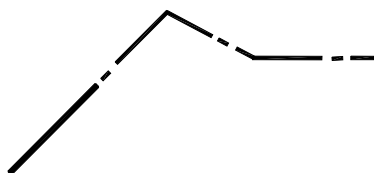
ON にすると、連続して線種を表示します。

OFF にすると、頂点ごとに切ります。

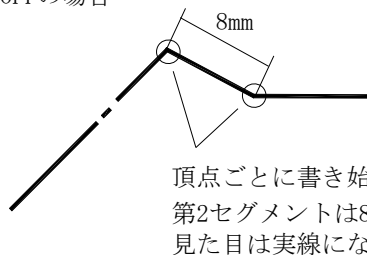
(一点鎖線で作図)



ONの場合



OFFの場合



[参照マークを表示する]チェックボックス

ON にすると、部品や外部参照を配置した場合、参照マーク(R のマーク)を表示します。

OFF にすると、表示されません。

[背景ラスタ名を表示する]チェックボックス

参照ファイルが見つからない場合や、ラスタが表示されていない場合に認識できるように、背景が存在する位置に表示される目印の表示・非表示を設定します。

ON にすると、背景が存在する位置に目印としてファイル名を表示します。

OFF にすると、表示されません。

[参照ファイルが存在しない場合のみ表示する]チェックボックス

ON にすると、参照ファイルが存在しない場合のみ目印としてファイル名を表示します。

OFF にすると、参照ファイルが存在しない場合以外でも表示します。

[既定義ハッチング(模様無し)の枠線を表示する]チェックボックス

『作図－ハッチング－要素』、『作図－ハッチング－座標』、『作図－ハッチング－自動』、『編集－ハッチングタイプ』の編集』コマンドで、ハッチングタイプが「既定値」タイプの「模様無し」で描画したハッチングのエリアを表示します。

ON にすると、既定義ハッチング(模様無し)のエリアを表示します。エリアの色は既定義ハッチング(模様無し)要素の色で表示されます。

OFF にすると、表示されません。

3 ステートにすると、既定義ハッチング(模様無し)のエリアを図面の最前面に表示します。エリアの色は印刷枠の設定、枠の色は仮要素の設定で表示されます。

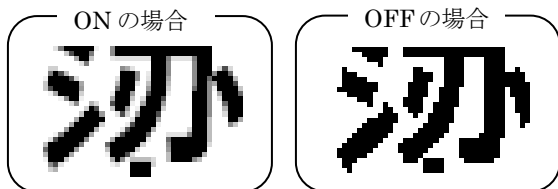
※チェックボックスの設定パターン

ON: OFF: 3 ステート:

[スクリーンフォントの縁を滑らかにする]チェックボックス

ON にすると、スクリーンフォントの縁を滑らかにします。

OFF にすると、スクリーンフォントの縁を滑らかにしない為、文字要素を削除した場合、文字エッジ部分に残像が残らなくなります。



1-2 仮要素

『設定－表示－仮要素』

機能

仮要素の表示色と線種を設定します。

操作方法

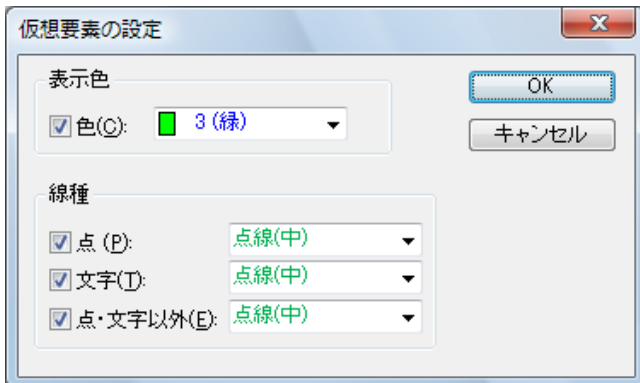
タイプを設定して下さい。【仮要素の設定:ダイアログ】

◆ 仮要素の設定:ダイアログ

機能

仮要素の表現を設定します。

画面表示上の色と線種を設定します。



説明

[表示色]グループ

[色]チェックボックス

ON にすると、すべての仮要素は[色]コンボボックスで指定した色で表示します。

OFF にすると、要素が持つ色で表示します。

[色]コンボボックス

仮要素の画面表示上の色を選択します。

[線種]グループ

[点]チェックボックス

ON にすると、すべての点仮要素は、[点の線種]コンボボックスで指定した線種で表示します。

OFF にすると、要素が持つ線種で表示します。

[点の線種]コンボボックス

点仮要素の線種を選択します。

[文字]チェックボックス

ON にすると、すべての文字仮要素は、[文字の線種]コンボボックスで指定した線種で表示します。

OFF にすると、要素が持つ線種で表示します。

[文字の線種]コンボボックス

文字仮要素の線種を選択します。

[点・文字以外]チェックボックス

ON にすると、点・文字以外のすべての仮要素は、[点・文字以外の線種]コンボボックスで指定した線種で表示します。

OFF にすると、要素が持つ線種で表示します。

[点・文字以外の線種]コンボボックス

点・文字以外の仮要素の線種を選択します。

2 SXF変換

『設定－SXF 変換』

機能

SXF ファイル(拡張子 p21, sfc)を開く場合の設定を行います。

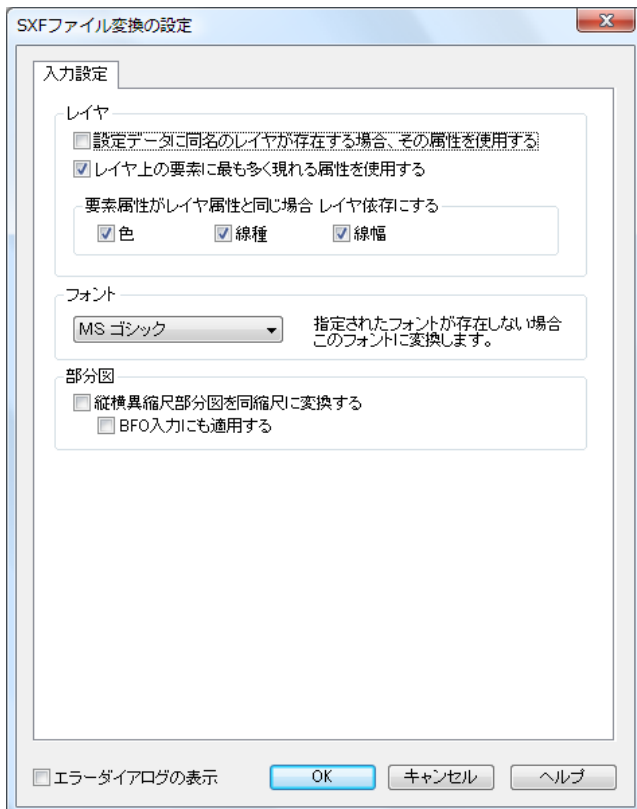
操作方法

1. SXF ファイル変換の設定をして下さい。
【SXF ファイル変換の設定:ダイアログ】

◆ SXF ファイル変換の設定:ダイアログ

機能

SXF ファイル(拡張子 p21, sfc)を開く場合の設定を行います。



説明

[レイヤ]グループ

[設定データに同名のレイヤが存在する場合、その属性を使用する]チェックボックス

ON の場合、設定データ(DefaultLayerAttribute.bfo)に同じ名前のレイヤがあった場合、レイヤの属性(色, 線種, 線幅)は設定データにあるレイヤの属性にします。

OFF の場合、レイヤの属性は色が 7(白), 線種が実線, 線幅が 0.00mm になります。

[レイヤ上の要素に最も多く現れる属性を使用する]チェックボックス

ON の場合、同じレイヤを持つ要素を検索し、その中で最も多く使われている属性(色, 線種, 線幅)をそのレイヤの属性にします。

OFF の場合、レイヤの属性は色が 7(白), 線種が実線, 線幅が 0.00mm になります。

[設定データに～]チェックボックスとの関係は[設定データに～]チェックボックスが優先になります。

設定データ	レイヤ上の要素	動作
ON	ON	① 設定データに同じ名前のレイヤがあった場合、レイヤの属性は設定データにあるレイヤの属性にします。 ② 該当レイヤがない場合、同じレイヤを持つ要素を検索し、その中で最も多く使われている属性をそのレイヤの属性にします。
ON	OFF	① 設定データに同じ名前のレイヤがあった場合、レイヤの属性は設定データにあるレイヤの属性にします。 ② 該当レイヤがない場合、レイヤの属性は色が7(白), 線種が実線, 線幅が0.00mmになります。
OFF	ON	同じレイヤを持つ要素を検索し、その中で最も多く使われている属性をそのレイヤの属性にします。
OFF	OFF	レイヤの属性は色が7(白), 線種が実線, 線幅が0.00mmになります。

[要素属性がレイヤ属性と同じ場合 レイヤ依存にする]グループ

[色]チェックボックス

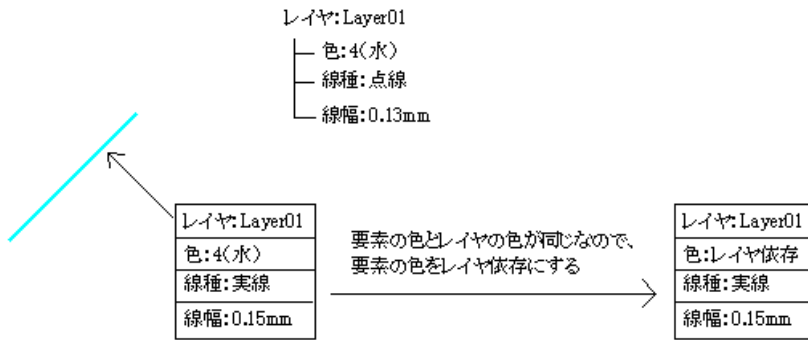
要素の色と要素のレイヤの色が同じ場合、要素の色をレイヤ依存(レイヤに割り当てた色)にします。

[線種]チェックボックス

要素の線種と要素のレイヤの線種が同じ場合、要素の線種をレイヤ依存(レイヤに割り当てた線種)にします。

[線幅]チェックボックス

要素の線幅と要素のレイヤの線幅が同じ場合、要素の線幅をレイヤ依存(レイヤに割り当てた線幅)にします。



[フォント]グループ

[フォント]コンボボックス

SXF ファイルの中で指定されたフォントがない場合、どのフォントに変換するか選択します。

[部分図]グループ

[縦横異縮尺部分図を同縮尺に変換する]チェックボックス

縦横の縮尺が異なる部分図を、同縮尺の部分図に変換します。

[bfo 入力にも適用する]チェックボックス

縦横異縮尺部分図を同縮尺に変換する処理を、BFO ファイルにも適用します。

[エラーダイアログの表示]チェックボックス

ON の場合、SXF ファイルを読み込・保存する時にメッセージのダイアログを表示します。

3 AutoCAD変換

『設定—AutoCAD 変換』

機能

AutoCAD ファイル(拡張子 dwg, dxf)を開く場合の設定を行います。

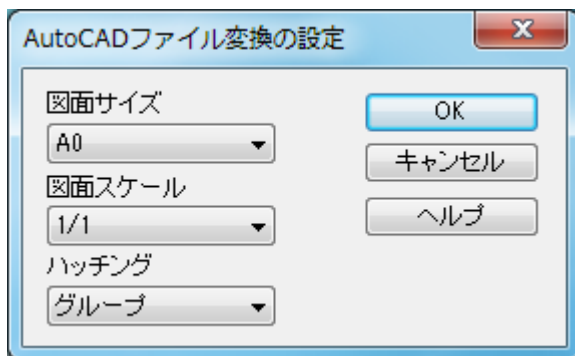
操作方法

1. AutoCAD ファイル変換の設定をして下さい。【AutoCAD ファイル変換の設定:ダイアログ】

◆ AutoCAD ファイル変換の設定:ダイアログ

機能

AutoCAD ファイル(拡張子 dwg, dxf)を開く場合の設定を行います。



説明

【図面サイズ】コンボボックス

AutoCAD ファイルを開いた場合の図面サイズを選択します。

【図面スケール】コンボボックス

AutoCAD ファイルを開いた場合の図面スケールを選択します。

【ハッチング】コンボボックス

AutoCAD ファイルを開いた場合のハッチング (HATCH) の変換方法を以下から選択します。

【ハッチング】そのままハッチングとして読み込みます。ハッチング (模様) によって、塗りタイプ、斜線タイプ、パターンタイプに分けます。

【ハッチング (塗り)】ハッチング (塗りタイプ) に変換します。

【グループ】模様や斜線を線分等の要素としてグループ化します。表示上の精度が上がります。

8

朱書きモード『朱書き』

8章 朱書きモード『朱書き』

朱書きモードと CAD モードを切り替えます。

朱書きモード 朱書きモードと CAD モードの切り替えを行います。

1 朱書きモード

『朱書き－朱書きモード』

機能

朱書きモードと CAD モードの切り替えを行います。

朱書きモードにすると、メニューの前にチェックが付きます。

本書記載の商標

- ・ 記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

『V-nas /V-nas 施工版 朱書き機能版コマンドリファレンス』

発行日 2009年 1月 30日 初版
2012年 5月 17日 4版

発行者 川田テクノシステム株式会社

Copyright© 2012,KAWADA TECHNOSYSTEM CO.,LTD.
All rights reserved

- ・ 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期していますが、万一ご不明の点や、誤り、お気付きの点がございましたら、弊社またはお買い求めになられた販売店にご連絡下さいますようお願いいたします。
- ・ 本製品および本書を運用した結果につきましては、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承をお願いいたします。